

有価証券報告書

平成22年度 自 平成22年4月1日
(第152期) 至 平成23年3月31日

東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号

電気化学工業株式会社

(E00774)

目次

頁

表紙		
第一部	企業情報	1
第1	企業の概況	1
1.	主要な経営指標等の推移	1
2.	沿革	3
3.	事業の内容	4
4.	関係会社の状況	6
5.	従業員の状況	8
第2	事業の状況	9
1.	業績等の概要	9
2.	生産、受注及び販売の状況	11
3.	対処すべき課題	11
4.	事業等のリスク	14
5.	経営上の重要な契約等	15
6.	研究開発活動	16
7.	財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	17
第3	設備の状況	18
1.	設備投資等の概要	18
2.	主要な設備の状況	19
3.	設備の新設、除却等の計画	21
第4	提出会社の状況	22
1.	株式等の状況	22
(1)	株式の総数等	22
(2)	新株予約権等の状況	22
(3)	行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	22
(4)	ライツプランの内容	22
(5)	発行済株式総数、資本金等の推移	22
(6)	所有者別状況	22
(7)	大株主の状況	23
(8)	議決権の状況	24
(9)	ストックオプション制度の内容	24
2.	自己株式の取得等の状況	25
3.	配当政策	26
4.	株価の推移	26
5.	役員の状況	27
6.	コーポレート・ガバナンスの状況等	30
第5	経理の状況	37
1.	連結財務諸表等	38
(1)	連結財務諸表	38
(2)	その他	78
2.	財務諸表等	79
(1)	財務諸表	79
(2)	主な資産及び負債の内容	100
(3)	その他	104
第6	提出会社の株式事務の概要	105
第7	提出会社の参考情報	106
1.	提出会社の親会社等の情報	106
2.	その他の参考情報	106
第二部	提出会社の保証会社等の情報	107
	[監査報告書]	

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年6月22日
【事業年度】	第152期（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）
【会社名】	電気化学工業株式会社
【英訳名】	DENKI KAGAKU KOGYO KABUSHIKI KAISHA
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 吉高 紳介
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号
【電話番号】	03（5290）5512
【事務連絡者氏名】	経理部課長 大沢 悟
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号
【電話番号】	03（5290）5512
【事務連絡者氏名】	経理部課長 大沢 悟
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第148期	第149期	第150期	第151期	第152期
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
売上高（百万円）	329,262	363,996	334,130	323,875	357,893
経常利益（百万円）	26,006	24,918	3,094	16,888	23,052
当期純利益（百万円）	15,734	6,660	1,439	10,474	14,355
包括利益（百万円）	—	—	—	—	12,821
純資産額（百万円）	164,643	161,870	150,142	160,316	168,182
総資産額（百万円）	365,301	375,364	377,912	400,407	402,046
1株当たり純資産額（円）	323.81	317.91	300.60	321.46	337.35
1株当たり当期純利益（円）	32.03	13.57	2.89	21.33	29.24
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益（円）	—	—	—	—	—
自己資本比率（％）	43.5	41.6	39.1	39.4	41.2
自己資本利益率（％）	10.3	4.2	1.0	6.9	8.9
株価収益率（倍）	17.2	23.1	61.2	18.8	14.0
営業活動によるキャッシュ・ フロー（百万円）	25,064	22,944	5,794	46,418	33,780
投資活動によるキャッシュ・ フロー（百万円）	△22,057	△21,668	△33,876	△28,377	△23,763
財務活動によるキャッシュ・ フロー（百万円）	△4,877	△1,815	31,096	△17,262	△10,554
現金及び現金同等物の期末 残高（百万円）	3,841	3,162	6,077	6,815	6,160
従業員数（人） 〔外、平均臨時雇用者数〕	4,696 〔1,035〕	4,653 〔1,212〕	4,783 〔1,224〕	4,742 〔1,285〕	4,768 〔1,413〕

（注）1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、新株予約権付社債等潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第148期	第149期	第150期	第151期	第152期
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
売上高 (百万円)	244,152	266,776	219,256	213,513	240,413
経常利益 (百万円)	24,034	22,816	2,359	9,328	15,737
当期純利益 (百万円)	15,069	6,604	1,617	5,640	9,125
資本金 (百万円)	36,998	36,998	36,998	36,998	36,998
(発行済株式総数) (株)	(492,384,440)	(492,384,440)	(505,818,645)	(505,818,645)	(505,818,645)
純資産額 (百万円)	139,198	137,353	130,799	136,658	140,266
総資産額 (百万円)	310,725	323,062	323,162	343,186	345,754
1株当たり純資産額 (円)	283.51	279.87	266.32	278.28	285.70
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額) (円)	8.00 (3.50)	10.00 (5.00)	7.00 (5.00)	8.00 (3.00)	10.00 (5.00)
1株当たり当期純利益 (円)	30.68	13.46	3.24	11.49	18.58
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	44.8	42.5	40.5	39.8	40.6
自己資本利益率 (%)	11.3	4.8	1.2	4.2	6.6
株価収益率 (倍)	18.0	23.3	54.6	35.0	22.1
配当性向 (%)	26.1	74.3	216.6	69.6	53.8
従業員数 (人) 〔外、平均臨時雇用者数〕	2,635 〔478〕	2,687 〔608〕	2,773 〔678〕	2,718 〔734〕	2,739 〔814〕

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、新株予約権付社債等潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【沿革】

大正4年5月	設立
大正5年9月	東京株式取引所、大阪株式取引所で当社株式定期売買を開始
大正5年10月	大牟田工場（福岡県）にてカーバイド、石灰窒素の製造開始
大正10年12月	青海工場（新潟県）にてカーバイドの製造開始
昭和17年1月	大牟田工場にてアセチレンブラックの製造開始
昭和24年5月	東京・大阪・名古屋各証券取引所に株式上場（翌25年1月福岡証券取引所に株式上場）
昭和30年7月	樹脂加工会社東洋化学㈱に資本参加（平成15年4月当社に合併）
昭和33年10月	群馬化学㈱を設立（昭和48年10月当社に合併し、渋川工場とする）
昭和37年5月	東京都町田市に中央研究所完成
昭和37年6月	青海工場田海地区にクロロプレン工場完成（国産クロロプレンゴムの製造に成功）
昭和37年11月	ポリスチレン等樹脂・化成品の製造会社デンカ石油化学工業㈱を設立（昭和49年4月当社に合併し、千葉工場とする）
昭和38年5月	高圧ガスの製造・販売会社西日本高圧瓦斯㈱に資本参加（現・連結子会社）
昭和40年8月	肥料製造会社日之出化学工業㈱の経営権を取得（現・連結子会社）
昭和41年10月	機能・加工製品事業開始（デンカポリマー㈱現・連結子会社）
昭和43年4月	特殊混和材「デンカCSA」販売開始。以降各種特殊混和材事業拡大
昭和46年4月	デンカエンジニアリング㈱を設立（現・連結子会社）
昭和46年4月	大牟田工場にて溶融シリカの製造開始
昭和47年9月	山富商事㈱に資本参加（現・連結子会社）
昭和50年9月	渋川工場にて高性能接着剤「ハードロック」製造開始
昭和51年6月	アクゾ・ザウト・ケミー社（現アクゾ・ノーベル・ケミカルズ社、オランダ）と合併で、モノクロル酢酸の製造・販売会社デナック㈱を設立
昭和54年7月	東京芝浦電気㈱（現㈱東芝）より同社所有の東芝化学工業㈱の株式を譲受（昭和57年1月デンカ生研㈱と商号変更。現・連結子会社）
昭和55年9月	アセチレンブラック製造のためシンガポールにデンカシンガポールP. L. 設立（現・連結子会社）
昭和60年6月	渋川工場にて電子基板「HITTプレート」製造開始
昭和62年10月	モノシランガス製造・販売の合弁会社デナルシラン㈱設立（現・連結子会社）
平成元年12月	溶融シリカ製造のためシンガポールにデンカアドバンテックP. L. 設立（現・連結子会社）
平成4年1月	住友化学工業㈱（現住友化学㈱）との合弁会社千葉スチレンモノマー(有)設立（現・連結子会社）
平成8年1月	塩化ビニール事業を東ソー㈱および三井東圧化学㈱（現三井化学㈱）と事業統合（合弁会社大洋塩ビ㈱）
平成10年8月	東洋化学㈱が金属雨どい製造会社中川テクノ㈱に資本参加（現・連結子会社）
平成11年4月	ポリスチレン事業を新日鐵化学㈱およびダイセル化学工業㈱と事業統合。合弁会社である東洋スチレン㈱に移管
平成11年12月	デンカ生研㈱が日本証券業協会の店頭登録銘柄に指定（平成16年12月にジャスダック証券取引所に株式を上場、平成20年3月に上場廃止）
平成13年7月	コンクリート構造物の補修事業会社㈱デンカリノテックを設立（現・連結子会社）
平成14年10月	東洋化学㈱を株式交換により完全子会社化
平成15年3月	大阪・名古屋・福岡各証券取引所の株式上場を廃止
平成15年4月	東洋化学㈱を吸収合併
平成15年7月	デンカアヅミン㈱を設立（現・連結子会社）
平成19年10月	連結子会社のデンカ化工㈱（現デンカテクノアドバンス㈱）運営の伊勢崎工場を当社直接運営体制に変更
平成20年4月	デンカ生研㈱を株式交換により完全子会社化
平成21年4月	アジア地域統括持株会社としてデンカケミカルズホールディングスアジアパシフィックP. L. を設立（平成21年6月にデンカシンガポールP. L. およびデンカアドバンテックP. L. を同社の子会社化）

3 【事業の内容】

当社グループ（当社および当社の関係会社）は、当社（電気化学工業株式会社）、子会社68社および関連会社42社より構成されており、有機系素材、無機系素材、電子材料、機能・加工製品の製造・販売を主たる業務としているほか、これらに附帯するサービス業務等を営んでおります。

当社グループの事業内容および当社と関係会社の当該事業における位置付けは、次のとおりであります。

なお、次の4部門は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

- (1) 有機系素材事業……………主要な製品は、スチレンモノマー、ポリスチレン樹脂、ABS樹脂、クリアレン、耐熱・透明樹脂、酢酸、酢酸ビニル、ポパール、クロロプレナム、アセチレンブラック等であります。

当社が製造・販売をおこなうほか、子会社の菱三商事(株)および山富商事(株)が当社製品の販売をおこなっております。国内では子会社の千葉スチレンモノマー(株)がスチレンモノマーの製造を行い、関連会社の東洋スチレン(株)がポリスチレン樹脂を、デナック(株)がモノクロル酢酸等を、スズカケミー(株)が塗料等の製造・販売をおこなっております。海外では子会社のデンカシンガポールP. L.（シンガポール）がポリスチレン樹脂、クリアレン、MS樹脂、アセチレンブラックの製造・販売をおこなっております。

- (2) 無機系素材事業……………主要な製品は、肥料、カーバイド、耐火物、セメント、特殊混和材等であります。

当社が製造・販売をおこなうほか、子会社の菱三商事(株)および山富商事(株)が当社製品の販売をおこなっております。子会社の日之出化学工業(株)が熔成燐肥の製造を、西日本高压瓦斯(株)他がアセチレンガス等の製造・販売をおこない、当社のセメント、特殊混和材を原料として子会社のデンカ生コン高山(株)他が生コンクリートの製造・販売をおこなっております。

- (3) 電子材料事業……………主要な製品は、熔融シリカ、電子回路基板、ファインセラミックス、電子包装材料等であります。

当社が製造・販売をおこなうほか、子会社の菱三商事(株)および山富商事(株)が当社製品の販売をおこなっております。国内では子会社のデンナルシラン(株)がモノシランガス等の製造・販売をおこなっております。海外では子会社のデンカアドバンテックP. L.（シンガポール）が熔融シリカの製造・販売をおこなっております。

- (4) 機能・加工製品事業……………主要な製品は、食品包装材料、住設・環境資材、産業資材、ワクチン、関節機能改善剤、診断薬等であります。

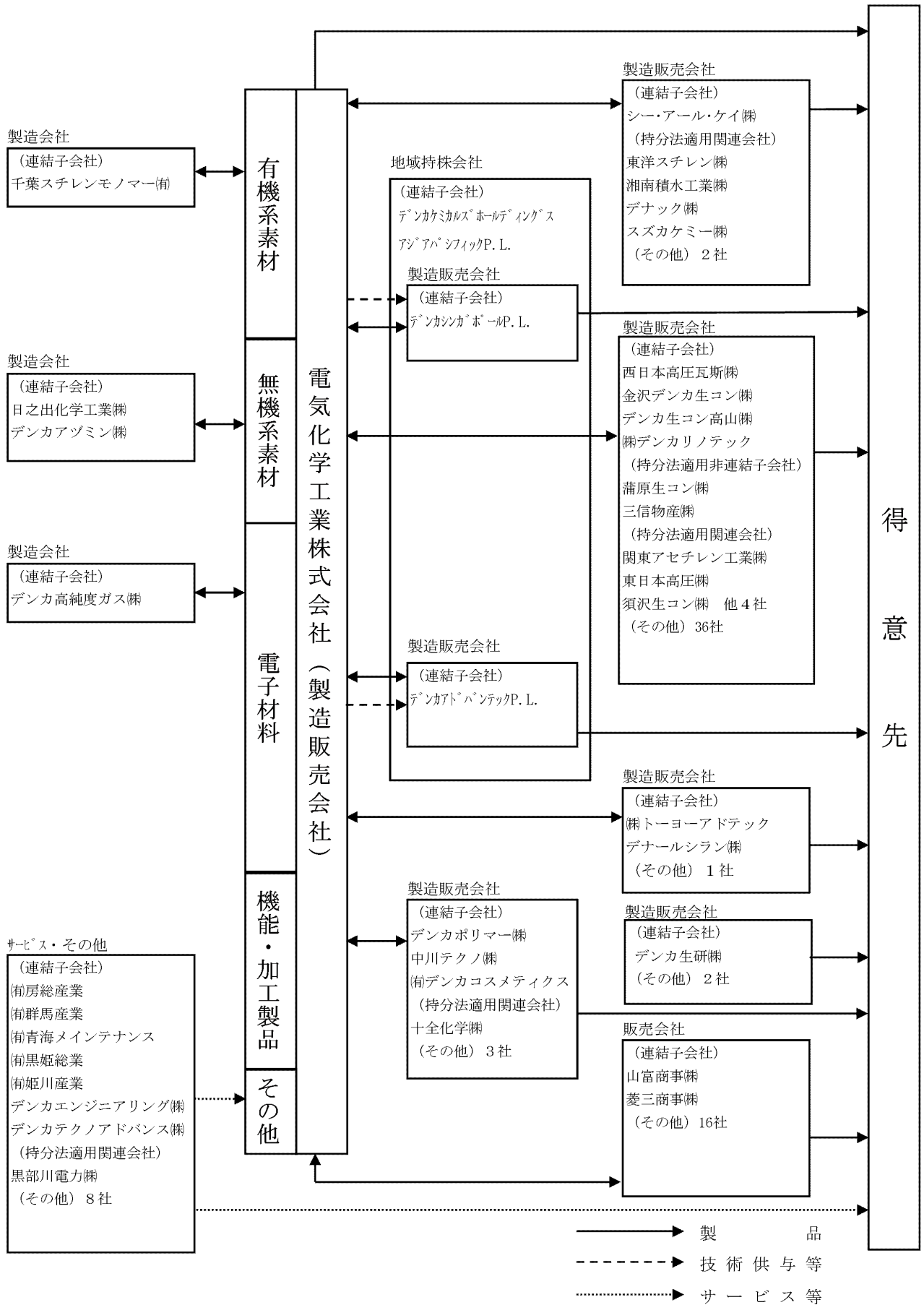
当社が製造・販売をおこなうほか、子会社の菱三商事(株)および山富商事(株)が当社製品の販売をおこなっております。子会社のデンカポリマー(株)が合成樹脂加工製品等を、デンカ生研(株)がワクチン、検査試薬等の製造・販売をおこなっております。

- (5) その他事業……………プラントエンジニアリング事業、卸売業等を含んでおります。

子会社のデンカエンジニアリング(株)がプラントエンジニアリング事業を、山富商事(株)および菱三商事(株)が当社製品等の卸売を、関連会社の黒部川電力(株)が電力供給事業をおこなっております。

[事業系統図]

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容		議決権の 所有割合 (%)	関係内容	
			セグメント	事業内容		役員の兼務等 (期末日現在)	主な事業上の関係
(連結子会社) 千葉スチレン モノマー(株)	東京都中央区	2,000	有機系素材	スチレンモノマ ーおよびエチル ベンゼンの製 造・販売	60.0	当社の役員と兼務1名	当社は完成品を購入し、販売および二次製品を製造している。
デンカシンガポール Pte. Ltd.	シンガポール	6,941万 S\$	有機系素材	ポリスチレン樹 脂およびアセチ レンブラックの 製造・販売	100.0 (100.0)	当社の役員と兼務1名	当社は技術を供与している。
デンカケミカルズホ ールディングスアジ アパシフィック Pte. Ltd.	シンガポール	6,870万 US\$	有機系素材 電子材料	東南・南アジア の地域統括持株 会社	100.0	—	当社の地域統括持株 会社
日之出化学工業(株)	京都府舞鶴市	300	無機系素材	化学肥料の製 造・販売	100.0	当社の役員と兼務1名	当社は完成品を購入し、販売している。
西日本高圧瓦斯(株)	福岡県福岡市 博多区	80	無機系素材	高圧ガスの製 造・販売	93.2	—	当社の製品を原料と して供給している。
(株)デンカリノテック	東京都中央区	50	無機系素材	コンクリート構 造物およびコン クリート建築物 の補修・補強材 料の販売	100.0	—	当社の製品を販売し ている。
デンカアヅミン(株)	岩手県花巻市	300	無機系素材	肥料および農業 資材の製造・販 売	100.0	当社の役員と兼務1名	当社は完成品を購入し、販売している。
デンカアドバン テックPte. Ltd.	シンガポール	1,700万 S\$	電子材料	熔融シリカおよ び熔融シリカフ ィラーの製造・ 販売	100.0 (100.0)	—	当社は技術を供与し ている。
デナールシラン(株)	東京都中央区	500	電子材料	モノシランガ ス、塩化水素等 の製造・販売	51.0	当社の役員と兼務2名	当社の製品を原料と して供給し、副生物 の一部を購入してい る。
デンカポリマー(株)	東京都江東区	2,080	機能・加工 製品	樹脂加工製品の 製造・販売	100.0	当社の役員と兼務1名	当社の製品を原料と して供給している。
中川テクノ(株)	兵庫県加西市	50	機能・加工 製品	金属雨どい製品 の製造・加工・ 販売	80.0	当社の役員と兼務1名	当社は完成品を購入し、販売している。
デンカ生研(株)	東京都中央区	1,000	機能・加工 製品	ワクチン、臨床 検査試薬の製 造・販売	100.0	当社の役員と兼務4名	—
山富商事(株)	東京都文京区	100	その他	工業用原料資材 等の販売	100.0	—	当社の製品を販売し ている。
デンカ エンジニアリング(株)	東京都中央区	50	その他	各種産業設備等 の設計施工	100.0	—	当社の建設工事に伴 う設計・施工等をし ている。
菱三商事(株)	東京都港区	1,200	その他	無機・有機工業 製品等の販売	65.5	当社の役員と兼務1名	当社の製品を販売し ている。
その他 12社							
(持分法適用非連結子 会社) 2社							

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容		議決権の 所有割合 (%)	関係内容	
			セグメント	事業内容		役員の兼務等 (期末日現在)	主な事業上の関係
(持分法適用関連会社) 東洋スチレン㈱	東京都港区	5,000	有機系素材	ポリスチレン樹脂の製造・加工・販売	50.0	—	当社の製品を原料として供給し、完成品の一部を購入している。
湘南積水工業㈱	千葉県佐倉市	300	有機系素材	ポリスチレン樹脂等の加工・販売	30.0	当社の役員と兼務1名	当社の製品を原料として供給し、完成品の一部を購入している。
デナック㈱	東京都千代田区	600	有機系素材	モノクロル酢酸の製造・販売	50.0	当社の役員と兼務2名	当社の製品を原料として供給し、副生物の一部を購入している。
スズカケミー㈱	千葉県佐倉市	200	有機系素材	塗料、接着剤等の製造・販売	25.0	—	当社の製品を原料として供給している。
関東アセチレン工業㈱	群馬県渋川市	60	無機系素材	溶解アセチレンの製造・販売	33.3	当社の役員と兼務1名	当社の製品を原料として供給している。
東日本高压㈱	東京都港区	95	無機系素材	高压ガスの製造・販売	43.7	当社の役員と兼務1名	当社の製品を原料として供給している。
十全化学㈱	富山県富山市	65	機能・加工製品	医薬品・工業薬品の製造・販売	50.0	当社の役員と兼務1名	当社の製品を原料として供給している。
黒部川電力㈱	東京都港区	3,000	その他	電力事業	50.0	当社の役員と兼務1名	当社は電力を購入している。
その他 5社							

(注) 1. 「主要な事業の内容」のセグメント欄には、セグメントの名称を記載しております。

2. 上記のうち、売上高（連結会社間の内部売上高を除く。）の連結売上高に占める割合が100分の10を越える会社はありませんので、主要な損益情報等の記載は省略しております。

3. 議決権の所有割合の（ ）内は、他の連結子会社による間接保有割合であり、内数表示をしております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成23年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数（人）
有機系素材事業	826(231)
無機系素材事業	847(218)
電子材料事業	802(215)
機能・加工製品事業	1,422(494)
その他事業	620(184)
全社（共通）	251(71)
合計	4,768(1,413)

(注) 1. 従業員数は就業人員（当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含みます。）であり、臨時雇用者数（嘱託、日雇い、パートタイマー等を含みます。）は（ ）内に年間の平均人員を外数で記載しております。

2. 全社（共通）として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

平成23年3月31日現在

従業員数（人）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
2,739(814)	40.2	18.6	6,041,343

セグメントの名称	従業員数（人）
有機系素材事業	666(198)
無機系素材事業	679(202)
電子材料事業	674(200)
機能・加工製品事業	482(143)
全社（共通）	238(71)
合計	2,739(814)

(注) 1. 従業員数は就業人員（当社から社外への出向者209人を除き、社外から当社への出向者8人を含みます。）であります。臨時雇用者数（嘱託、日雇い、パートタイマー等を含みます。）は（ ）内に年間の平均人員を外数で記載しております。

2. 平均年間給与は、時間外手当等の基準外賃金および賞与手当を含んでおります。

3. 全社（共通）として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

当社には、本社従業員組合、電気化学労働組合の2つの組合があります。平成23年3月末現在の総組合員数は2,294名です。

現在、会社と組合との間には、平成23年3月締結の労働協約があり、円満な労使関係を維持しております。

なお、両組合共、上部団体には加盟しておりません。

また、当社を除く連結子会社のうち6社には合わせて7つの労働組合があり、平成23年3月末現在の組合員数の合計は553名です。労使関係について特に記載すべき事項はありません。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、個人消費の持ち直しや輸出の緩やかな増加など一部で回復へ向けた動きが見られましたが、急激な円高や北アフリカ、中東情勢の緊迫化による原油価格の急騰が経済環境を圧迫する最中に東日本大震災が発生し、先行きの情勢を見極めることが困難な状況となっております。

化学工業界におきましても、国内外における需要増により販売数量が増加し企業収益は改善しましたが、円高による輸出製品の採算低下や原材料価格の上昇、震災の影響もあり状況は厳しさを増しております。

このような経済環境のもとで、当社グループは、国内外での拡販や販売価格の是正をおこない業容の拡大と収益の確保に注力いたしました結果、有機系素材や電子材料を中心に多くの製品で販売数量が増加し、当連結会計年度の売上高は3,578億93百万円と前連結会計年度に比べ340億17百万円（10.5%）の増収となりました。収益面では、営業利益は246億18百万円（前連結会計年度比29億62百万円増、13.7%増益）となり、売上高営業利益率は6.9%（0.2ポイント増加）に改善しました。営業外損益では、持分法適用会社の収支改善に伴い投資利益が増加し、経常利益は230億52百万円（前連結会計年度比61億64百万円増、36.5%増益）となりました。不採算事業の整理損や投資有価証券の評価損および震災により発生した損失を特別損失に計上したことにより、当期純利益は143億55百万円（前連結会計年度比38億81百万円増、37.1%増益）となりました。

<有機系素材事業>

スチレンモノマー、ABS樹脂等のスチレン系樹脂および透明樹脂は、原材料価格の上昇に対応して販売価格を改定したほか需要増により販売数量が増加し増収となりました。特殊樹脂“クリアレン”の販売数量は前年同期並みとなりました。シンガポールの子会社デンカシンガポール社のポリスチレン樹脂等は順調に推移し増収となりました。クロロブレンゴムは中国やアジアを中心に積極的な拡販をおこない販売数量が増加し増収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は1,563億98百万円（前連結会計年度比248億44百万円増（18.9%増））、営業利益は49億70百万円（前連結会計年度比32億89百万円増（195.7%増））となりました。

<無機系素材事業>

肥料や耐火物、鉄鋼用材料は販売数量、売上高とも前年同期並みとなりました。セメントは公共投資や民需の低迷が続いており販売数量が減少し減収となりました。特殊混和材はNATM吹付けコンクリート用急結剤“ナトミック”の販売数量が増加し増収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は485億71百万円（前連結会計年度比4億21百万円減（0.9%減））、営業利益は30億25百万円（前連結会計年度比7億59百万円増（33.5%増））となりました。

<電子材料事業>

電子回路基板は電鉄向けや産業機器向けに販売数量が増加し増収となりました。半導体封止材向け球状溶融シリカフィラーなどの機能性セラミックスや電子部品、半導体搬送資材である“デンカサーモシートEC・クリアレンシートC”などの電子包材は新興国の市場拡大により販売数量が増加し増収となりました。LED用サイアロン蛍光体“アロンブライト”や高機能接着剤“ハードロック”は販売数量が増加し増収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は469億14百万円（前連結会計年度比79億54百万円増（20.4%増））、営業利益は84億71百万円（前連結会計年度比21億10百万円増（33.2%増））となりました。

<機能・加工製品事業>

プラスチック雨どいや農・土木用途向けのコルゲート管は、販売数量、売上高とも堅調に推移しました。合繊かつら用原糸“トヨカロン”はアフリカ諸国向けの輸出が好調となり販売数量が増加し増収となりました。耐候性フッ素系アロイフィルム“DXフィルム”は増産設備が稼動し販売数量が増加し増収となりました。食品包材用シートや子会社デンカポリマー株式会社の加工品は堅調に推移しました。医薬では、関節機能改善剤（高分子ヒアルロン酸製剤）は新プラントへの移行に伴う出荷調整により販売数量が前連結会計年度を下回りました。子会社のデンカ生研株式会社のインフルエンザワクチンやインフルエンザ検査試薬は平年度並みに推移しました。

この結果、当セグメントの売上高は729億85百万円（前連結会計年度比14億45百万円増（2.0%増））と増収になりましたが、営業利益は71億88百万円（前連結会計年度比36億65百万円減（33.8%減））となりました。

<その他事業>

菱三商事株式会社等の商社は需要増により取扱量が増加し増収となりました。デンカエンジニアリング株式会社は民間設備投資の持ち直しもあり受注高が前連結会計年度を上回りました。

この結果、当事業の売上高は330億23百万円（前連結会計年度比1億94百万円増（0.6%増））、営業利益は8億86百万円（前連結会計年度比2億46百万円増（38.5%増））となりました。

(2) キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益が改善したものの、運転資金の増加や法人税等支払額の増加などにより、前連結会計年度に比べ126億38百万円減少し337億80百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、大型投資が一巡したことなどにより、前連結会計年度に比べ46億14百万円支出が減少し237億63百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、引き続き有利子負債の削減に努めましたが、前連結会計年度に比べ67億8百万円支出が減少し105億54百万円の支出となりました。

以上の結果、当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、換算差額などを含め前連結会計年度末と比べ6億55百万円減少し61億60百万円となりました。

なお、キャッシュ・フロー指標のトレンドは以下のとおりです。

	平成19年3月期	平成20年3月期	平成21年3月期	平成22年3月期	平成23年3月期
自己資本比率(%)	43.5	41.6	39.1	39.4	41.2
時価ベースの自己資本比率(%)	74.2	41.1	23.0	49.3	50.1
債務償還年数(年)	3.6	4.0	23.4	2.6	3.4
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	19.1	14.9	3.4	27.0	22.8

自己資本比率……………自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率……………株式時価総額／総資産

債務償還年数……………有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ……………営業キャッシュ・フロー／利息支払額

(注) 1. いずれの指標も連結ベースの財務数値により算出しております。

2. 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数（自己株式控除後）により算出しております。

3. 有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。

2 【生産、受注及び販売の状況】

当社グループの生産・販売品目は広範囲かつ多種多様であり、同種の製品であっても、その容量、構造、形式等は必ずしも一様ではなく、また受注生産形態をとらない製品がほとんどであるため、セグメントごとに生産規模および受注規模を金額あるいは数量で示すことは行っておりません。

このため「生産、受注及び販売の状況」については、「1. 業績等の概要」におけるセグメントの業績に関連付けて記載しております。

3 【対処すべき課題】

(対処すべき課題)

今後の見通しにつきましては、世界経済は新興諸国の成長に牽引される形でのゆるやかな回復が期待されますが、東日本大震災の生産活動に与える影響が世界規模で広がっており、いっそう不透明な経済状況が続くものと認識しております。

このような状況下、当社ではサプライチェーンの確保や危機対応力の強化を推し進める一方で、当社のあるべき姿をぶれることなく追求していくことが重要であると考え、当社創立100周年を目指した全社運動“DENKA100”に引き続き取り組んでまいります。そして、DENKA100にかかげる目標達成のため、新たな3カ年の実行計画“CS（チャレンジングスピリット）13”を2011年2月に策定いたしました。CS13では、素材部門の収益の安定化を図るとともに、成長分野である電子材料事業や機能・加工製品事業への一層の注力、クロロブレンゴムを始めとする大型設備投資の着実な回収、中国、アジアなど成長地域への展開の強化などを推し進めることで2013年度の連結営業利益450億円を目指してまいります。

《DENKA100・CS13概要》

(基本理念) 高い技術力で「資源」から「価値あるモノ」を生み出す企業となる

(基本方針) ・事業計画“CS13”を展開する。

- ・意識改革運動であるGCP活動（Good Company Program）を推し進める。
- ・人材の育成、生産技術の進化、研究開発の進化を強化する。
- ・CSR活動を積極的に推し進める。

(数値目標) 2015年度：連結営業利益600億円以上 営業利益率10%以上

2013年度(CS13)：連結営業利益450億円以上

※文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末において当社グループが判断したものであり、その達成を保証するものではありません。

(株式会社の支配に関する基本方針)

I. 基本方針の内容

当社は、石灰石資源と自家発電所を基盤としたカーバイドと化学肥料の生産を出発点として1915年に創業し、カーバイド化学により培った電炉技術・高温反応制御技術・有機合成技術などを基に無機化学から有機化学、さらには電子材料や樹脂加工製品まで非常に幅広い事業領域を有するユニークな化学メーカーとして成長してきました。

このような歴史を有する当事業は、原材料から最終製品に至るまでの工程が非常に長い製品や、多様な領域の自社技術を複合的に活用した製品が多いことを特徴としております。また、これらの事業は、地道な研究開発や保安活動、長期的な視点に基づく設備投資や人材育成、取引先や地域社会との信頼関係などの長年にわたる努力の積み重ねの上に成立しているものであります。換言すれば、多様な技術とそれを複合的に活用できる知識と経験を有する人材が当社の企業価値の源泉であり、脈々と受け継いできた経営資源や信頼関係が企業価値を支える基盤であるということが当社の現状に対する基本認識であります。

近年ではわが国においても、企業の成長戦略として企業買収が多用されるようになってきておりますが、当社取締役会もこのような市場原理に基づくダイナミズムの活用が企業の成長にとって重要なものであると認識しております。また、当社は株式を上場している企業として、多様な価値観を有する株主の存在を認めており、大量買付けを含む当社の支配権の異動については株主の皆様が最終的な判断を下すべきものであると考えております。しかしながら、現実に行われてきた大量買付けの中には、対象となる会社の企業価値や株主共同の利益を毀損するおそれのあるものや、これに応じるか否かを判断するために十分な情報と時間が提供されないものなどがあり、全ての大量買付けを無条件に認めることは株主の皆様の付託を受けている経営者として、責任を全うしているとは言いがたいものと考えております。

当社取締役会は、当社の財務及び事業の方針を支配する者は、当社の企業価値の源泉を十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を継続的かつ持続的に確保、向上していく者である必要があると考えており、下記の項目に該当するような当社株式の大量買付け等には原則として反対することを表明いたします。また、当社株式の大量買付け等が下記の項目に当てはまるか否かを当社または株主が判断するに足る十分な情報と時間を提供しないような場合にも、当社取締役会はそのような大量買付け等に原則として反対の立場をとることといたします。

このような要件に該当する当社株式の大量買付けが行われようとした場合、当社取締役会は、当社の企業価値ひいては株主共同の利益が侵害されるのを防止するため、また、株主の皆様それぞれが納得のいく判断を下すことが可能となる環境を確保するため、法令、金融商品取引所等の諸規則及び当社定款の定めが認める範囲内において必要かつ相当な対抗策を講じる事を検討していきます。当社取締役会は、当社株式の大量買付け等について日常的にチェック活動を行い、株主共同の利益や企業価値を損なうことがないよう、機動的に対応していきます。

記

- ①以下に掲げる行為等により、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれのある買付け等である場合
 - (i) 株券等を買占め、その株式等について当社または当社の関係者に対して高値で買取りを要求する行為
 - (ii) 当社の経営を一時的に支配して、当社の重要な資産等を廉価に取得する等当社の犠牲の下に買付け者等の利益を実現する経営をおこなうような行為
 - (iii) 当社の資産を買付け者等やそのグループ会社等の債務の担保や弁済原資として流用する行為
 - (iv) 当社の経営を一時的に支配して、当社の事業に当面関係していない高額資産等を処分させ、その処分利益をもって、一時的な高配当をさせるか、一時的な高配当による株価の急上昇の機会をねらって高値で売り抜ける行為
- ②強圧的二段階買付け（最初の買付けで全株式の買付けを勧誘することなく、二段階目の買付け条件を不利に設定し、あるいは明確にしないで、公開買付け等の株式買付けをおこなうことをいいます）等株主に株式の売却を事実上強要するおそれのある買付け等である場合
- ③当社取締役会に、当該買付け等に対する代替案を提示するために合理的に必要な期間を与えない買付け等である場合
- ④当社株主に対して、必要情報その他買付け等の内容を判断するために合理的に必要なとされる情報を十分に提供しない買付け等である場合
- ⑤買付け等の条件（対価の価額・種類、買付け等の時期、買付け等の方法の適法性、買付け等の実行の蓋然性、買付け等の後の経営方針または事業計画等を含みます）が当社の本源的価値に鑑み不十分または不適当な買付け等である場合

- ⑥当社の企業価値を生み出す上で必要不可欠な当社の従業員、取引先等との関係や当社のブランド力を損なうこと等により、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に反する重大なおそれをもたらす買付け等である場合
- ⑦買付け者等の経営者または主要株主に反社会的勢力と関係を有する者が含まれている場合等、公序良俗の観点から買付け者等が当社の支配権を取得することが不適切である場合

II. 基本方針の実現に資する特別な取組みの概要

イ. 基本方針の実現に資する特別な取組み

現在、当社では2015年に迎える創立100周年に向けての新たな挑戦として、長年にわたり積上げてきた高い技術力により、「資源」から「価値あるモノ」を生み出す企業となることを目標に、DENKA100と名づけた運動を展開しております。

また、DENKA100を実現するため2013年までの中期計画としてCS13を策定し、各々の製品の位置付けに応じた事業戦略を展開することで、より高い収益力の獲得を目指しております。

具体的には①「強いものをより強く」のコンセプトに基づき、“クロロprenゴム”や“高分子ヒアルロン酸製剤”など、独自性と市場における強い立場を有する製品への大型投資により、その地位を一層確かなものにする、②成長の著しい電子材料分野について、当社の持つ多様な技術を用いた関連製品群を集中的に投入・展開を図っていく「クラスター戦略」、③世界経済を牽引する中国を始めとする海外における製造・販売拠点の拡充などを通じ、計画の実現を図り、持続的な企業価値の向上に努めております。

また、会社の統治機構改革としては、取締役会の人数削減（平成19年）、社外取締役（2名）の導入、取締役の役位の原則廃止による監督と執行の区分の明確化、取締役任期の単年度化（いずれも平成20年）など、コーポレートガバナンスの強化を図ると共に、内部監査室の設置（平成19年）により監査役、会計監査人と連携した監査の充実を図り、経営の透明性を高めてきております。

ロ. 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針を支配されることを防止するための取組みとして、平成20年6月27日開催の第149回定時株主総会において当社株式の大量取得行為に関する対応策（いわゆる事前警告型敵対的買収防衛策、以下「本プラン」といいます。）を導入いたしました。本プランの有効期限は、平成23年6月開催の定時株主総会終結の時までとなっておりますが、当社は平成23年4月11日開催の当社取締役会において、本プランの有効期限の終了をもって本プランを継続しないことを決議いたしました。

III. 取締役会の判断およびその判断に係る理由

当社取締役会は、上記II. イに記載した取組みは、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を向上させることを目的として実施するものであり、当社の基本方針実現に資するものであると考えております。そして、これらの取組みは、株主の共同の利益に合致したものであり当社役員の地位の維持を目的としたものではありません。

4 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績および財務状況などに重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、次のようなものがあります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末において当社グループが判断したものであります。

当社グループの経営成績は、自動車や電子部品、鉄鋼産業などの需要動向により影響を受けるほか、原油や基礎石油化学製品などの原燃料市況ならびに為替の影響を受ける可能性があります。

当社グループは、顧客の信頼を第一に考え、安心して使用できる製品の提供に万全の対策を講じておりますが、製造やサービスの提供は高度かつ複雑な技術の集積であり、また原材料の外部調達もあることなどから品質保証の管理は複雑化しております。当社グループの製品やサービスに予期せぬ品質問題が発生した場合は当社グループの業績と財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

有利子負債につきましては、当連結会計年度末において1,145億62百万円（借入金依存度28.5%）であります。当社グループは、今後、有利子負債の削減に努めてまいります。将来の金利変動により、当社グループの業績と財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

退職給付費用および債務は、割引率等数理計算上で設定される前提条件や年金資産の期待収益率に基づいて算出されておりますが、実際の結果が前提条件と異なる場合、または前提条件が変更された場合、費用および計上される債務に影響を及ぼします。近年の割引率の低下および年金資産運用の悪化により当社グループの年金費用は増加してきておりますが、一層の割引率の低下や運用利回りの悪化は当社グループの業績と財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

保有有価証券の市況変動につきましては、主に取引先との関係構築・維持のための政策上の投資として株式を保有しておりますが、株式相場の大幅な下落、または株式保有先の財政状態の悪化や倒産等により株式の評価が著しく下落し、回復の可能性が望めない場合には、株式の減損処理により、当社グループの業績と財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

繰延税金資産につきましては、将来の課税所得を合理的に見積って回収可能性を判断し計上しておりますが、実際の課税所得が見積りと異なり回収可能性の見直しが必要となった場合、もしくは税率の変更を含む税制の改正等があった場合には、繰延税金資産の取崩しが必要となり、当社グループの業績と財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

訴訟等につきましては、当社グループ倫理規定をはじめ各種社内規定に基づき、国内外の法令遵守はもちろんのこと、当社グループの社会における信頼を維持・確保することに努めておりますが、広範な事業活動をおこなう中で訴訟やその他の法律的手続きの対象となり、重要な訴訟等の提起を受けた場合には、当社グループの業績と財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

その他、国内外の経済・政治情勢、技術革新、産業事故、環境汚染、地震をはじめとした自然災害等が、当社グループの業績と財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

(1) 技術援助契約の概要

契約会社名	契約締結先	内容	対価	契約期間	契約年
電気化学工業 株 (当社)	独立行政法人物質・材 料研究機構 (日本)	サイアロン蛍光体基本 技術	実施料	平成16年9月1日～ 平成26年8月31日	平成16年
電気化学工業 株 (当社)	レイシオン・エンジニ アズ・アンド・コンス トラクターズ (アメリカ)	エチルベンゼンおよび スチレンモノマー製造 技術	頭金	平成7年6月9日～ 平成24年6月8日	平成7年
デンカ生研株 (連結子会社)	メディミューン (アメリカ)	ワクチン製造に用いる ウイルス株の調整方法 であるリバーシジェネ ディスク法技術	頭金 他に実施料	平成21年9月20日開始	平成21年
デナールシラ ン株 (連結子会社)	日本産業技術振興協会 (J I T A) (日本)	トリクロルシラン製造 技術	実施料	平成20年1月1日～ 平成24年12月31日	平成20年
デナールシラ ン株 (連結子会社)	エア・リキード (フランス)	モノシランガス取り扱 いに関するノウハウ	実施料	昭和63年4月1日～ 平成20年12月31日 以後1年ごとの自動更新	昭和63年

6 【研究開発活動】

当社グループは、固有技術の深耕により「強い製品をより強く」していく一方、既存事業を核とした成長性のある周辺技術分野の特殊高機能製品群の開発、更には次世代新製品開発にも重点をおいて、市場要求へのスピーディな対応を図り、研究開発を早期に実需化するべく努力をしております。

当連結会計年度におけるグループ全体の研究開発費は98億19百万円、研究要員は617名であり、当連結会計年度に国内で公開された特許は204件、国内で登録された特許（実用新案を含む）は328件となりました。

当連結会計年度における各セグメント別の研究の目的、主要課題、研究成果および研究開発費は次のとおりであります。

(1) 有機系素材事業

透明樹脂、耐熱樹脂、シュリンク材など特長あるスチレン系機能性樹脂の生産技術の深耕、品質向上、新規用途開発ならびに新製品開発を推し進めており、シンガポール子会社の製造能力増強も販売に寄与しております。

有機化学品分野では、クロロプレンゴム、E Rゴム、アセチレンブラック等について、海外市場を含めた事業拡大のために生産技術の強化を行い、特にクロロプレンゴムでは世界でトップシェアをとるべく、競争力を追究したプロセス開発およびグレード開発に、アセチレンブラックではリチウムイオン二次電池分野でのシェアアップに向けた品質の高度化に取り組んでいます。当セグメントに係わる研究開発費は22億28百万円でした。

(2) 無機系素材事業

特殊混和材関係では、差別化・民需対応を中心とした新製品群の開発と技術提案の促進に取り組んでおり、既存品では膨張材で建築分野を開拓中であり、新製品では維持補修市場や、超高強度繊維補強コンクリートに代表される超高強度・高耐久性コンクリート市場を開拓中です。さらに、環境に配慮した新製品の開発も行っています。

肥料・無機製品では、アルミナ繊維の生産技術の高度化と自動車用途などの展開を目指した研究開発に注力するとともに、アルミナセメントならびに肥料などの事業体質強化に向けた研究開発に注力しております。当セグメントに係わる研究開発費は11億79百万円でした。

(3) 電子材料事業

電子部材では、市場の伸びが期待されるLED向けなどの基板・放熱材料の品揃えを強化するとともに、βサイアロン蛍光体の更なる特性向上を進めるとともに、新規の蛍光体開発も進めております。またパワーエレクトロニクス向け放熱部材の競争力向上の研究を推し進めるとともに、開発製品への積極的な設備投資もおこなっています。さらに接着剤関係では紫外線硬化型接着剤技術を応用した特殊機能性接着剤の新製品開発・市場開拓を推進しており、特に電子部品製造用仮固定接着剤テンプロックの拡販に向けた技術開発に注力しています。

電子包材では、電子部品搬送テープ、半導体ウェハ保護・固定用粘着テープを中心に市場ニーズに適応した新製品をタイムリーに供給すべく開発を進め、事業拡大に寄与しています。

機能性セラミックスでは、半導体封止材用球状シリカで更なる高性能化を追求するとともに、放熱材料用のBN粉、放熱材料用や半導体封止用の球状アルミナをはじめとした機能性粉体群(ナノフィラーを含む)および半導体製造工程に使用されるBN系成型品の開発に取り組んでいます。当セグメントに係わる研究開発費は27億41百万円でした。

(4) 機能・加工製品事業

包装資材、建材、産業資材分野の樹脂加工製品では、太陽電池向け耐候性フィルムや合成繊維などの製品群開発を引き続き推進するとともに、フィルム・シートの製膜技術、異型押出技術、粘着塗工技術をベースに、自社素材の活用を含めて関連グループ会社と連携し、市場ニーズに適応した製品開発を進め、更なる事業拡大を図っております。

医薬品関連分野では、培養法高分子ヒアルロン酸の「関節機能改善剤」としてのシェア拡大を目指した研究開発を推し進めるとともに、高分子ヒアルロン酸の機能を活かした新規用途開発に取り組んでおります。デンカ生研併では、安全かつ有効な高品質ワクチンの開発および社会的損失が大きい感染症の検査に必要な細菌検査試薬やウイルス検査試薬、健康管理に欠かせない臨床生化学検査試薬や免疫検査試薬の開発を推進しております。当セグメントに係わる研究開発費は36億20百万円でした。

(5) その他事業

産業設備の設計・施工等を行なっているデンカエンジニアリング(株)が、効率的な粉体の空気輸送設備の技術開発や廃水設備等の研究開発をおこなっています。その他事業に係わる研究開発費は49百万円でした。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日（平成23年6月22日）現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に準拠して作成されております。連結財務諸表の作成にあたっては、重要な会計方針と合理的と考えられる見積りに基づき、収益、費用、資産、負債の計上について判断しております。

当社グループの連結財務諸表の作成においては、例えば一般債権に対する貸倒引当金の引当については主として過去の貸倒実績率を、繰延税金資産の計上については将来の税務計画を、退職給付債務については、昇給率、割引率などを使用して見積っておりますが、見積りにつきましては不確実性があるため、実際の結果と異なる場合があります。

(2) 財政状態

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べ16億39百万円増加の4,020億46百万円となりました。流動資産は、売上債権およびたな卸資産が増加し前連結会計年度末に比べ49億92百万円増加の1,433億52百万円となりました。固定資産は、有形および無形固定資産の減価償却などにより、前連結会計年度末に比べ33億53百万円減少し2,586億93百万円となりました。

負債では、仕入債務などが増加しましたが、工事代金決済に伴う工事未払金の減少や有利子負債の削減を積極的にこなったことなどにより、前連結会計年度末に比べ62億26百万円減少し2,338億64百万円となりました。

少数株主持分を含めた純資産は、前連結会計年度末に比べ78億66百万円増加し1,681億82百万円となりました。尚、自己資本比率は39.4%から41.2%となり、1株当たり純資産は321円46銭から337円35銭となりました。

(3) 経営成績

当連結会計年度の経営成績およびキャッシュ・フローの状況につきましては、「第2 事業の状況 1. 業績等の概要」の「(1)業績」および「(2)キャッシュ・フロー」に記載のとおりです。

(4) 今後の見通し

今後の見通しにつきましては、世界経済は中国を中心とした新興諸国の成長に牽引される形でのゆるやかな回復が見込まれますが、日本経済は円高による輸出製品の採算低下や原材料価格の上昇に加えて東日本大震災の影響もあり、先行きの情勢を見極めることが困難な状況となっております。

このような経済環境の下、当社グループは高付加価値製品を中心に積極的な拡販に努めるとともに、引き続き収益確保のため更なる固定経費の見直しや効率化を進めてまいり所存です。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループでは、「強いものをより強く」という基本方針のもと、全体で213億25百万円の設備投資を実施いたしました。

有機系素材事業では、当社青海工場でのクロロプレングムの大型自動定温倉庫工事等を中心に43億86百万円の設備投資を実施いたしました。

無機系素材事業では、当社青海工場でのカーバイド製造設備の更新工事等を中心に37億19百万円の設備投資を実施いたしました。

電子材料事業では、当社大牟田工場でのLED用サイアロン蛍光体“アロンブライト”の増産工事を中心に73億18百万円の設備投資を実施いたしました。

機能・加工製品事業では、当社やデンカ生研株式会社などで59億52百万円の設備投資を実施いたしました。

その他事業では、販売設備等の更新のため、37百万円の設備投資を実施いたしました。

当連結会計年度中に完成した主要な設備工事といたしましては、当社青海工場での関節機能改善剤（高分子ヒアルロン酸製剤）の増産工事や当社伊勢崎工場での耐候性フッ素系アロイフィルム“DXフィルム”増産工事などがあります。

2【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成23年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	建物及び 構築物 (百万円)	機械装置 及び運搬 具 (百万円)	土地 注4		その他帳 簿価額 (百万円)	帳簿価額 合計 (百万円)	従業員数 (人)
					面積 (千㎡)	簿価 (百万円)			
青海工場 (新潟県糸魚川市、 長野県北安曇郡小谷村)	有機系素材 無機系素材 機能・加工製品	無機・有機化学製 品・医薬品生産設 備	21,906	42,091	6,684 (1,723) 注3	6,742	1,440	72,181	790
大牟田工場 (福岡県大牟田市)	有機系素材 無機系素材 電子材料	無機・有機化学製 品・電子機能材料 生産設備	6,118	9,679	883	7,244	1,163	24,206	412
千葉工場 (千葉県市原市)	有機系素材 機能・加工製品	有機化学製品・樹 脂加工製品生産設 備	5,979	7,353	723	22,801	406	36,540	398
渋川工場 (群馬県渋川市)	電子材料	電子機能材料製品 生産設備	2,881	2,155	187	4,803	225	10,066	163
大船工場 (神奈川県鎌倉市)	機能・加工製品	樹脂加工製品生産 設備	777	2,361	47	3,183	169	6,491	130
伊勢崎工場 (群馬県伊勢崎市、 群馬県太田市)	電子材料 機能・加工製品	電子機能材料、樹 脂加工製品生産設 備、研究開発設備	2,522	3,385	91	3,071	1,224	10,204	180
中央研究所 (東京都町田市)	全社(共通)	研究開発設備	430	255	33	4,499	264	5,449	88
本社 (東京都中央区他)	有機系素材 無機系素材 電子材料 機能・加工製品 全社(共通)	管理・販売業務用 設備および福利厚 生施設	464	508	3	378	537	1,889	403
支店・その他 (大阪府大阪市北区、 愛知県名古屋市中村区 他)	有機系素材 無機系素材 電子材料 機能・加工製品	管理・販売業務用 設備および福利厚 生施設	1,138	586	128 (8)	3,456	15	5,197	175

- (注) 1. 「その他帳簿価額」は、工具、器具及び備品および建設仮勘定の合計であります。なお、金額には消費税等は含まれておりません。
2. 上記中の()内は、貸借中のものであります。
3. 年間貸借料は190百万円であります。
4. 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価をおこなっております。なお、土地の再評価の概要等については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(連結貸借対照表関係)」に記載のとおりであります。

(2) 国内子会社

平成23年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	建物及び 構築物 (百万円)	機械装置 及び運搬 具 (百万円)	土地		その他帳 簿価額 (百万円)	帳簿価額 合計 (百万円)	従業員数 (人)
						面積 (千㎡)	簿価 (百万円)			
千葉スチレンモノマー(株)	工場 (千葉県市原市)	有機系素材	有機化学製品 生産設備	340	536	(20) 注2	—	1	877	—
デナールシラン(株)	工場 (新潟県糸魚川市)	電子材料	電子機能材料 生産設備	683	3,075	(13) 注2	—	13	3,772	—
デンカポリマー(株)	佐倉工場 (千葉県佐倉市)	機能・加工 製品	樹脂加工製品 生産設備	159	230	11	673	27	1,089	55
	五井工場 (千葉県市原市)	機能・加工 製品	樹脂加工製品 生産設備	82 注3	297 注3	7	527	146	1,052	114
	香取工場 (千葉県香取郡多古町)	機能・加工 製品	樹脂加工製品 生産設備	101 注3	398 注3	(45) 注2	—	51	550	67
デンカ生研(株)	新潟工場・鏡田工場 (新潟県五泉市)	機能・加工 製品	医薬品生産設備	3,507	3,666	65	707	906	8,787	432

- (注) 1. 「その他帳簿価額」は、工具、器具及び備品、建設仮勘定およびリース資産の合計であります。なお、金額には消費税等は含まれておりません。
2. 上記中の()内は、提出会社より賃借中のものであります。
3. 工場建物および生産設備をリースしております。年間リース料は102百万円であります。

(3) 在外子会社

平成23年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	建物及び 構築物 (百万円)	機械装置 及び運搬 具 (百万円)	土地		その他帳 簿価額 (百万円)	帳簿価額 合計 (百万円)	従業員数 (人)
						面積 (千㎡)	簿価 (百万円)			
デンカシンガポールP.L	ポリスチレン工場、アセチレンブラック工場 (シンガポール)	有機系素材	有機化学製品 生産設備	1,394	3,801	(91) 注3	—	60	5,256	101
デンカアドバンテックP.L	熔融シリカ工場 (シンガポール)	電子材料	電子機能材料 生産設備	669	833	(17) 注4	—	11	1,514	58

- (注) 1. 「その他帳簿価額」は、工具、器具及び備品および建設仮勘定の合計であります。なお、金額には消費税等は含まれておりません。
2. 上記中の()内は、賃借中のものであります。
3. 年間賃借料は62百万円であります。
4. 年間賃借料は18百万円であります。

3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、経営資源の重点的かつ効率的な投入を念頭に策定しております。設備計画は原則的に連結会社が個別に策定しておりますが、重要な計画に関しては当社を中心に調整を図っております。

なお、当社グループは、多種多様な事業を国内外でおこなっており、内容が多岐に渡るため、セグメントごとの数値を開示する方法によっております。

当連結会計年度後1年間の設備投資計画（新設・拡充）は220億円であり、セグメントごとの内訳は次のとおりです。

セグメントの名称	平成23年3月末計画金額 (百万円)	設備等の主な内容・目的	資金調達方法
有機系素材事業	4,500	有機製品製造設備拡充工事 他	主に自己資金
無機系素材事業	5,000	無機製品製造設備拡充工事 他	主に自己資金
電子材料事業	8,000	電子材料製品製造設備拡充 工事他	主に自己資金
機能・加工製品事業	4,500	合成樹脂製品製造設備、医 薬品製造設備拡充工事他	主に自己資金
合計	22,000		

(注) 1. 金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 経常的な設備の更新のための売却・除却を除き、重要な設備の売却・除却の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,584,070,000
計	1,584,070,000

②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成23年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成23年6月22日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	505,818,645	505,818,645	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 1,000株
計	505,818,645	505,818,645	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成20年4月1日 (注)	13,434,205	505,818,645	—	36,998	7,738	49,284

(注) 平成20年4月1日付デンカ生研株との株式交換による増加であります。

(6)【所有者別状況】

平成23年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数 1,000株)								単元未満株 式の状況 (株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	76	50	354	354	4	31,019	31,857	—
所有株式数 (単元)	—	197,902	10,445	31,052	151,905	11	111,105	502,420	3,398,645
所有株式数の 割合(%)	—	39.38	2.07	6.18	30.23	0.00	22.11	100.00	—

(注) 1. 上記「その他の法人」および「単元未満株式の状況」の欄には、証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ13単元および86株含まれております。

2. 自己株式14,867,167株は、「個人その他」に14,867単元、「単元未満株式の状況」に167株含まれており
ます。

(7) 【大株主の状況】

平成23年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	東京都中央区晴海 1 丁目 8 番 11 号	35,016	6.92
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町 2 丁目 11 番 3 号	34,907	6.90
全国共済農業協同組合連合会 (常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)	東京都千代田区平河町 2 丁目 7 番 9 号 (東京都港区浜松町 2 丁目 11 番 3 号)	15,965	3.15
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海 1 丁目 8 番 12 号	15,275	3.01
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口 9)	東京都中央区晴海 1 丁目 8 番 11 号	14,777	2.92
三井生命保険株式会社 (常任代理人 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)	東京都千代田区大手町 2 丁目 1 番 1 号 (東京都中央区晴海 1 丁目 8 番 11 号)	11,908	2.35
ガバメント オブ シンガポール インベストメント コーポレーション ピー リミテッド (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	168 ROBINSON ROAD #37-01 CAPITAL TOWER SINGAPORE 068912 (東京都中央区日本橋 3 丁目 11 番 1 号)	9,302	1.83
ジェーピー モルガン チェース バンク 3 8 5 0 7 8 (常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行決済営業部)	125 LONDON WALL LONDON EC2Y 5AJ U. K. (東京都中央区月島 4 丁目 16 番 13 号)	7,662	1.51
野村信託銀行株式会社 (信託口)	東京都千代田区大手町 2 丁目 2 番 2 号	7,362	1.45
三井住友海上火災保険株式会社	東京都中央区新川 2 丁目 27 番 2 号	6,916	1.36
計	—	159,090	31.45

(注) 1. 上記のほか、自己株式が14,867千株あります。

2. 平成23年3月7日(報告義務発生日:平成23年2月28日)に、JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社から、以下のとおり同社ほか3社を共同保有者とする大量保有に関する報告書が関東財務局に提出されておりますが、当社として当事業年度末現在の実質所有状況を確認することができませんので、上記「大株主の状況」には含めておりません。

氏名または名称	保有株式数 (株)	保有割合 (%)
J Pモルガン・アセットマネジメント株式会社	20,936,000	4.14
ジェー・ピー・モルガン・チェース・バンク・ナショナル・アソシエーション	509,100	0.10
J Pモルガン証券株式会社	4,353,116	0.86
ジェー・ピー・モルガン・セキュリティーズ・リミテッド	541,330	0.11
計	26,339,546	5.21

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 14,937,000	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 487,483,000	487,483	—
単元未満株式	普通株式 3,398,645	—	—
発行済株式総数	505,818,645	—	—
総株主の議決権	—	487,483	—

(注) 「完全議決権株式 (その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が13,000株 (議決権13個) 含まれております。

② 【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名または名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
電気化学工業株式会社	東京都中央区日本橋室町2丁目1番1号	14,867,000	—	14,867,000	2.93
黒部川電力株式会社	東京都港区虎ノ門2丁目8番1号	50,000	—	50,000	0.00
アサヒ産業運輸株式会社	京都府舞鶴市喜多1105-15	20,000	—	20,000	0.00
計	—	14,937,000	—	14,937,000	2.95

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
当事業年度における取得自己株式	133,704	52,585,972
当期間における取得自己株式	1,243	499,690

(注) 当期間における取得自己株式には、平成23年5月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 (単元未満株式の売渡請求による売渡)	5,532	2,066,829	—	—
保有自己株式数	14,867,167	—	14,868,410	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成23年5月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社では、企業価値の長期的な増大が株主の皆様の利益の拡大につながるものと考えております。

そのうえで、株主への配当を経営の最重要事項の一つとして認識し、将来の事業発展と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、業績に裏付けされた株主への成果の配分とを、収益状況を勘案しながら決定することを基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度につきましては、上記方針に基づき1株あたり10円の配当（うち中間配当5円）を実施することを決定いたしました。

内部留保資金につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応すべく、今まで以上にコスト競争力を高め、市場ニーズに応える技術・製造開発体制を強化し、さらにはグローバル戦略の展開を図るために有効投資してまいりたいと考えております。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額（百万円）	1株当たり配当額（円）
平成22年11月8日 取締役会決議	2,455	5.0
平成23年6月22日 定時株主総会決議	2,454	5.0

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第148期	第149期	第150期	第151期	第152期
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
最高（円）	562	721	446	446	477
最低（円）	417	295	146	174	296

（注） 東京証券取引所第一部の市場相場を記載しております。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成22年10月	11月	12月	平成23年1月	2月	3月
最高（円）	380	390	404	417	440	442
最低（円）	348	349	370	377	390	296

（注） 東京証券取引所第一部の市場相場を記載しております。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役社長	DENKA100推進室管掌	吉高 紳介	昭和26年2月1日生	昭和49年3月 早稲田大学政治経済学部卒 昭和49年4月 当社入社 平成13年1月 経営企画室長 平成18年6月 取締役就任 経営企画室長兼IR・広報室長 平成19年6月 上席執行役員就任 IR・広報室長 平成20年4月 メディカルサイエンス事業部長 平成20年6月 取締役兼上席執行役員就任 平成22年4月 代表取締役兼常務執行役員就任 平成23年4月 代表取締役社長兼社長執行役員就任 (現任)	(注) 4	40
代表取締役	社長補佐 研究開発、医薬 関連事業総括 知的財産部管掌	前田 哲郎	昭和26年7月12日生	昭和52年3月 早稲田大学大学院理工学研究科修了 昭和52年4月 当社入社 平成12年6月 研究開発部長 平成16年6月 取締役就任 電子材料事業本部企画推進室長 平成18年6月 電子材料事業本部長 平成20年4月 取締役兼常務執行役員就任 平成22年4月 代表取締役兼専務執行役員就任 中央研究所長 平成23年4月 代表取締役兼副社長執行役員就任 (現任)	(注) 4	47
代表取締役	技術総括 資材部、物流 合理化プロジェ クトチーム主管	渡辺 均	昭和23年6月11日生	昭和46年3月 早稲田大学工学部卒 昭和46年4月 当社入社 平成18年6月 取締役就任 千葉工場長 平成19年6月 上席執行役員 平成20年4月 青海工場長 平成22年4月 常務執行役員就任 平成22年6月 取締役兼常務執行役員就任 平成23年4月 代表取締役兼専務執行役員就任 (現任)	(注) 4	21
取締役	中国代表	佐久間 信吉	昭和21年6月28日生	昭和46年3月 東京都立大学工学部卒 昭和46年4月 当社入社 平成14年1月 製品事業部長 平成16年6月 渋川工場長 平成17年6月 大牟田工場長 平成18年6月 取締役就任 平成19年6月 上席執行役員就任 平成21年4月 伊勢崎工場長 平成22年4月 常務執行役員就任 平成22年6月 取締役兼常務執行役員就任 平成22年10月 中国代表 (現任) 平成23年4月 取締役兼専務執行役員就任 (現任)	(注) 4	17
取締役	化学品事業部 長 デンカケミカル ズゲーエムペ ー担当	小野 健一	昭和24年7月22日生	昭和47年3月 明治大学法学部卒 昭和49年4月 当社入社 平成14年4月 セメント事業部長 平成16年6月 デンカポリマー(株)代表取締役社長 平成18年6月 取締役就任 平成19年6月 上席執行役員就任 平成22年4月 常務執行役員就任 化学品事業部長 (現任) 平成22年6月 取締役兼常務執行役員就任 (現任)	(注) 4	52

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	生活・環境プロダクツ事業部長、同事業部事業企画部長	植松 大一郎	昭和24年5月31日生	昭和50年3月 慶應義塾大学経済学部卒 昭和50年4月 当社入社 平成13年1月 樹脂・化成品事業部長 平成16年6月 電子材料事業本部電子包材事業部長 平成20年4月 執行役員就任 樹脂加工事業部長 平成21年4月 上席執行役員就任 生活・環境プロダクツ事業部長（現任） 平成22年4月 常務執行役員就任 平成22年6月 取締役兼常務執行役員就任（現任） 平成23年4月 生活・環境プロダクツ事業部事業企画部長（現任）	(注) 4	16
取締役	メディカルサイエンス事業部長 経理部、情報開発部、内部監査室、経営企画室、IR・広報室、CSR推進室担当	綾部 光邦	昭和27年9月23日生	昭和52年3月 慶應義塾大学大学院工学研究科修了 昭和52年4月 当社入社 平成16年6月 研究開発部長 平成19年6月 執行役員就任 デンカシンガポールPte. Ltd. マネージングダイレクター デンカアドバンテックPte. Ltd. マネージングダイレクター 平成21年6月 デンカケミカルズHDアジアパシフィックPte. Ltd. マネージングダイレクター 平成22年4月 上席執行役員就任 デンカケミカルズHDアジアパシフィックPte. Ltd. ダイレクターチェアマン 平成23年4月 常務執行役員就任 メディカルサイエンス事業部長（現任） 平成23年6月 取締役兼常務執行役員就任（現任）	(注) 4	3
取締役		田中 紘三	昭和15年5月15日生	昭和41年4月 弁護士登録（東京弁護士会） 栗山茂法律事務所入所 昭和45年7月 田中法律事務所設立 平成16年4月 中央大学法科大学院特任教授 平成19年6月 当社監査役就任 平成20年6月 当社取締役就任（現任）	(注) 4	—
取締役		橋本 正	昭和24年1月6日生	昭和47年3月 東京大学経済学部卒 昭和47年4月 ㈱第一勧業銀行入行 平成11年4月 同行融資企画室長 平成13年6月 同行執行役員 平成14年4月 ㈱みずほホールディングス執行役員 与信企画部長 平成15年3月 日本中央地所㈱専務取締役 平成17年12月 同社取締役社長 平成18年6月 みずほファクター㈱代表取締役社長 平成23年6月 当社取締役就任（現任）	(注) 4	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		大石 秀夫	昭和25年4月9日生	昭和49年3月 早稲田大学理工学部卒 昭和49年4月 当社入社 平成12年6月 エンジニアリング事業部長 平成19年6月 執行役員就任 大船工場長 平成22年4月 上席執行役員就任 平成23年6月 常勤監査役就任(現任)	(注) 5	13
常勤監査役		広江 治郎	昭和27年2月23日生	昭和50年3月 早稲田大学政治経済学部卒 昭和50年4月 当社入社 平成15年7月 大牟田工場次長 平成19年3月 青海工場次長 平成21年2月 人事部長 平成23年6月 常勤監査役就任(現任)	(注) 5	17
監査役		多田 敏明	昭和43年7月28日生	平成8年4月 弁護士登録(第二東京弁護士会) 平成8年12月 日比谷総合法律事務所入所 平成14年7月 ニューヨーク州弁護士登録 平成20年6月 当社監査役就任(現任)	(注) 5	—
監査役		笹浪 恒弘	昭和27年1月28日生	昭和54年4月 弁護士登録(東京弁護士会) 弁護士後藤英三法律事務所入所 (現・卓照総合法律事務所) 昭和60年9月 ㈱シーボン監査役(現任) 平成15年6月 ㈱親和銀行監査役(現任) 平成23年6月 当社監査役就任(現任)	(注) 5	—
計						226

- (注) 1. 取締役田中紘三および橋本正は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 監査役多田敏明および笹浪恒弘は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3. 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (千株)
一木 剛太郎	昭和24年12月4日生	昭和50年4月 弁護士登録(横浜弁護士会) 相模合同法律事務所入所 昭和58年4月 濱田松本法律事務所入所(第二東京弁護士会に登録換え) 昭和60年4月 濱田松本法律事務所パートナー弁護士 平成8年4月 第二東京弁護士会副会長(～平成9年3月) 平成12年4月 日本弁護士連合会事務次長(～平成14年3月) 平成14年12月 合併により森・濱田松本法律事務所パートナー弁護士	—

4. 平成23年6月22日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
5. 平成23年6月22日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

※コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

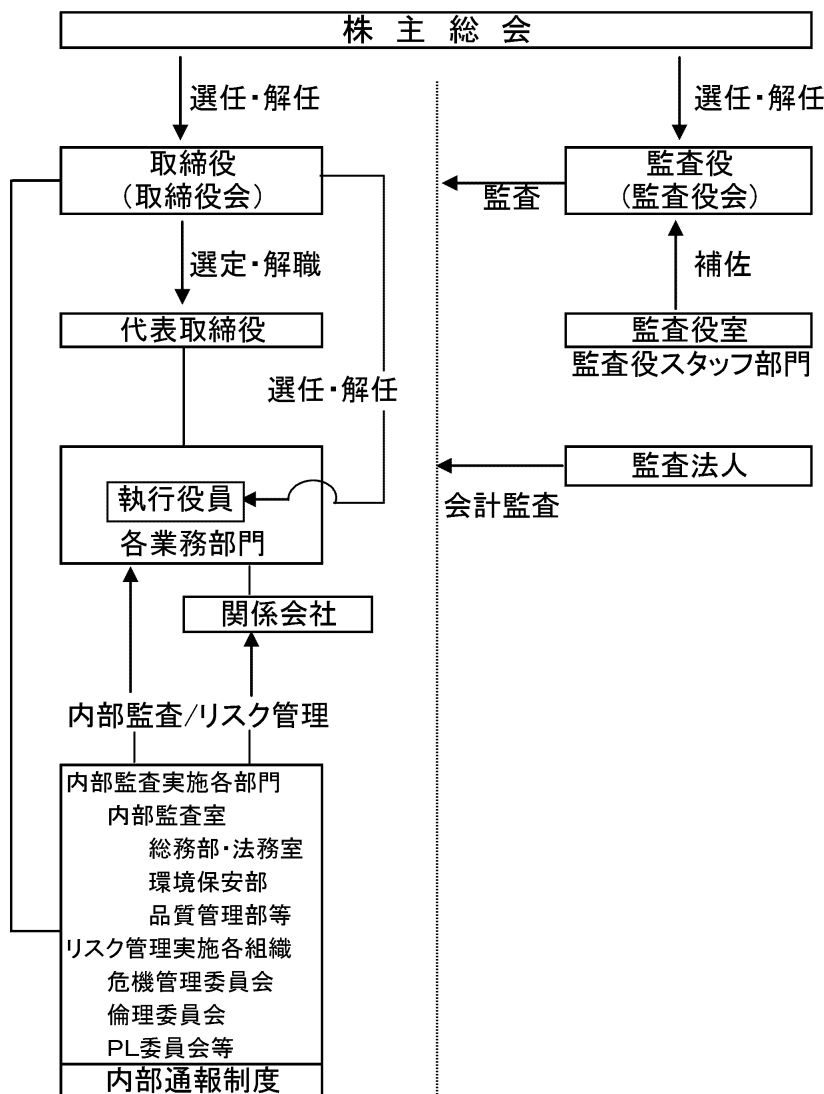
当社および当社グループは、株主、顧客、地域社会、従業員など多くの関係者各位のご期待・ご信頼に応えるべく、収益力や業容の拡大による事業基盤の強化を図る一方、社会の信頼と共感を得られる企業であり続けようとする姿勢を徹底することで企業価値の向上に努力しております。企業統治はそのための土台と考え、取締役会の活性化、監査体制の強化、経営機構の効率化、コンプライアンス体制の整備強化を図っております。

①企業統治の体制

・企業統治の体制の概要

当社における企業統治の体制は、独立性の高い社外取締役を2名選任したうえで、取締役会、監査役会、内部監査室や法務室等の内部監査部門・内部統制部門が連携を図る形となっております。（下記図表参照）

なお、委員会設置会社については当社の経営実態から大きくかけ離れており、現時点では採用を考慮しておりません。



・企業統治の体制を採用する理由

当該体制において監督、業務執行および監査の各機能の役割は下記の各項目のとおりであり、当社は、当該体制が当該役割を果たすために最適なものであり、株主・投資者等からの信認を確保していくうえでふさわしいものであると考えております。

ア) 監督機能（取締役、社外取締役、取締役会）

提出日現在において、取締役は9名（うち、社外取締役2名）を選任しております。

コーポレート・ガバナンスの強化のため、取締役における役位（専務・常務等）はこれを原則として廃止し、対等な立場で業務執行を監視・監督することに注力しております。

社外取締役2名は、いずれも東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定しており、その専門的見地および外部視点から経営全般に対して提言をいただき、取締役会における監督機能をいっそう充実させることをその役割として期待し、選任しております。

取締役会は、毎月1回開催しており、法令、定款および取締役会規定に基づき、業務執行に関する重要な意思決定をおこなうとともに、取締役および執行役員の業務執行を監督しております。

イ) 業務執行機能（執行役員制度、委員会・審議会等）

コーポレート・ガバナンスの強化のため、従来、取締役が担っていた業務執行のための権限と役位を執行役員側に移し、業務執行とその監視・監督機能を明確に切り分けることを目的として、執行役員制度を導入しております。

提出日現在において、執行役員は20名（うち、取締役兼務7名）を選任しており、取締役会において、その業務執行の状況を報告し、取締役による監視・監督を受けております。

取締役、監査役および執行役員の一部を構成メンバーとする経営委員会を設置し、経営の重要事項における討議の効率化と迅速化を図っております。また、予算編成、設備投資等の重要個別案件については、機能別の委員会、審議会等を設置し、専門的かつ効率的な審議をおこなっております。

ウ) 監査機能（監査役、社外監査役、監査役会、内部監査室、会計監査）

提出日現在において、監査役は4名（うち、社外監査役2名）を選任しております。

監査役は、監査役会の定める監査方針に従い、取締役会その他重要な会議への出席、取締役および執行役員からの報告聴取、重要書類の閲覧等により、取締役および執行役員の業務執行を監査しております。

社外監査役2名は、いずれも東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定しており、その専門的見地および外部視点を監査体制に活かしていただくことをその役割として期待し、選任しております。

監査役会は、毎月1回開催しており、各監査役から監査業務の結果について報告を受け、協議しております。また、業務執行の状況を聴取すべく、部門報告会を随時開催しております。

監査役会および監査役の職務補佐機関として、監査役室を設置しており、専従のスタッフ2名を配置しております。

内部監査について、専任部署として内部監査室を設置し、スタッフ7名を配置し、包括的な内部監査を実施しております。

会計監査については、新日本有限責任監査法人を会計監査人として選任（平成19年6月28日選任）しており、当該監査法人の監査を受けております。なお、当社の会計監査業務を執行している公認会計士とその継続監査年数は下記のとおりです。また、当社の会計監査業務にかかる補助者は公認会計士を含む10名程度で構成されております。

指定有限責任社員：公認会計士 大田原 吉隆（継続監査年数：5年）

指定有限責任社員：公認会計士 薬袋 政彦（継続監査年数：2年）

指定有限責任社員：公認会計士 矢部 直哉（継続監査年数：3年）

・内部統制システムの整備の状況およびリスク管理体制の整備の状況

ア) 取締役・使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

取締役会は、法令、定款および取締役会規定に基づき業務執行に関する重要な意思決定をおこなうとともに、取締役および執行役員の業務執行を監督する。

業務執行取締役および執行役員は、社長の統括の下、各担当業務を執行するとともに、所管する担当業務部門における使用人の業務執行を監督する。

監査役は、監査役会の定める監査方針に従い、取締役会その他重要な会議への出席、取締役からの報告聴取、重要書類の閲覧等により取締役の業務執行を監査する。

当社および子会社全役職員の法令遵守に関する行動指針として「デンカグループ倫理規定」を定め、社規社則により具体的な法令・定款への適合を確保する。

内部監査については、専任部署として内部監査室を設置し、包括的な内部監査を実施するとともに、専門的、個別的領域については、機能別に所管各部門および各種委員会が規定類遵守の教育ならびに遵守状況の監査をおこない、必要に応じ担当役員に報告をおこなう。

また、内部監査室は、金融商品取引法に定める「財務報告に係る内部統制報告書」の作成を目的とした、内部統制の整備・運用状況の検討・評価をおこない、その結果を担当役員に報告する。

上記各部門による内部監査を補完し、違反行為を早期に発見、是正するために内部通報制度を設ける。

イ) 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

取締役の職務の執行に係る情報は、取締役会規定、職務基準書等の社内規定に基づき作成し、文書保存規定に基づき保存、管理する。

ウ) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

企業活動に対し重大な影響をおよぼすと思われる危険の発生に対しては、「危機管理基本要綱」を定め対応方針を規定する。

環境、安全衛生、品質管理といった項目については、組織横断的な委員会を組織し包括的に危険の管理をおこない、部門に固有の項目については該当部門の責任において管理をおこなう。

エ) 取締役の職務の執行が効率的におこなわれることを確保するための体制

取締役会における経営の意思決定機能の最適化を図り、また、業務執行とその監督の分離を進め、それぞれの機能を強化するため、執行役員制度を採用する。

意思決定機関としての取締役会とは別に、取締役を構成メンバーとする経営委員会を設置し、案件ごとに担当の執行役員等も参加し討議をおこなうことで経営の重要事項における討議の効率化と迅速化を図る。

予算編成、設備投資等の重要個別案件については、機能別の審議会、委員会等を設置し、専門的かつ効率的な審議をおこなう。

職務基準書において、取締役、執行役員および従業員の基本任務、決裁権限を規定し、職務の執行の効率化を図る。

オ) 企業集団における業務の適正を確保するための体制

関係会社管理は、原則として所管部門が責任をもって総括的管理をおこなうとともに、各関係会社の実情に応じた指導・管理・監督をおこなう。

各関係会社の定常業務については、各社の自主性、独立性を尊重し自律的な活動を前提とするが、法令、社会規範の遵守については「デンカグループ倫理規定」等必要な規則を適用し、教育と監督をおこなう。

カ) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制および当該使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役会および監査役の職務補佐機関として、監査役室を設置する。

監査役室は、監査役会の事務局となり監査役から直接指揮命令を受ける。

監査役室要員の異動については、監査役と事前協議をおこなう。

キ) 監査役会または監査役への報告に関する体制およびその他監査役の監査が実効的におこなわれることを確保するための体制

取締役、執行役員および従業員は、部門ごとに監査役会または監査役の指示・求めに従い、定期的または必要に応じ担当業務の報告をおこなう。

内部監査室等の内部監査部門は、監査役による監査と連携し、相互の業務が効率的におこなわれるよう協力する。

監査役会および監査役の職務執行に支障のないよう、予算、監査役室要員の確保を図る。

②内部監査および監査役監査の状況

内部監査について、専任部署として内部監査室を設置し、スタッフ7名を配置し、包括的な内部監査を実施しております。

監査役監査について、監査役4名（うち社外監査役2名）による監査体制を敷いております。

監査役は、監査役会の定める監査方針に従い、取締役会その他重要会議への出席、取締役からの報告聴取、重要書類の閲覧等により取締役および執行役員の業務執行を監査しております。

監査役会は、毎月1回開催しており、各監査役から監査業務の結果について報告を受け、協議しております。また、業務執行の状況を聴取すべく、部門報告会を随時開催しております。

監査役会および監査役の職務補佐機関として、監査役室を設置しており、専従のスタッフ2名を配置しております。

監査役および内部監査室は、内部監査室の業務執行について監査役による監査が実施されているほか、必要に応じて相互に情報交換や意見交換をおこない、監査機能の実効性と効率性の向上に努めております。

監査役および会計監査人は、会計監査の内容について定期的に会計監査人から監査役への説明・報告がなされているほか、必要に応じて相互に情報交換や意見交換をおこない、監査機能の実効性と効率性の向上に努めております。

内部監査室および会計監査人は、金融商品取引法に基づく財務報告にかかる内部統制の評価について会計監査人による監査が実施されているほか、必要に応じて相互に情報交換や意見交換をおこない、監査機能の実効性と効率性の向上に努めております。

③社外取締役および社外監査役

当社の社外取締役は2名、社外監査役は2名であります。

社外取締役田中紘三氏ならびに社外監査役多田敏明氏および笹浪恒弘氏は、いずれも当社との間に人的関係、資本的關係または取引関係その他の利害関係はありません。

社外取締役橋本正氏は、当社の主要な取引先である金融機関出身者に該当いたしますが、当該金融機関の現在または最近においての業務執行者等ではないこと、当該金融機関を退職してから相当の年数が経過（提出日現在において退職後8年経過）していること、当社の総資産に対する借入金の比率は約3割と低く、当該金融機関からの借入は全体の1割以下であり、当該金融機関から当社の取締役会等における意思決定に対して特段の影響を及ぼすことはないと考えられること、その他一般株主との利益相反の生じるおそれがないと判断したことから、社外取締役としての独立性に問題はないと考えております。

社外取締役2名は、いずれも東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定しており、その専門的見地および外部視点から経営全般に対して提言をいただき、取締役会における監督機能をいっそう充実させることをその役割として期待し、選任しております。

社外監査役2名は、いずれも東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定しており、その専門的見地および外部視点を監査体制に活かしていただくことをその役割として期待し、選任しております。

当社は、現在の社外取締役2名および社外監査役2名の選任状況について、当社が期待する上記記載の役割を果たすために適切な陣容であると考えております。

社外取締役または社外監査役と内部監査室、ほかの監査役および会計監査人との間において、必要に応じて相互に情報交換や意見交換をおこない、監督機能または監査機能の実効性と効率性の向上に努めております。

④役員報酬等

イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (うち社外取締役)	423 (24)	388 (24)	— (—)	35 (—)	— (—)	14 (2)
監査役 (うち社外監査役)	103 (45)	103 (45)	— (—)	— (—)	— (—)	4 (2)
合計 (うち社外役員)	527 (69)	491 (69)	— (—)	35 (—)	— (—)	18 (4)

(注) 1. 当事業年度末現在の取締役は10名（うち社外取締役は2名）であります。上記と相違しておりますのは、平成22年6月22日開催の第151回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役4名が含まれているためであります。

2. 役員退職慰労金制度は平成18年6月29日開催の第147回定時株主総会終結の時をもって廃止しております。

ロ. 連結報酬等の総額が1億円以上である者の連結報酬等の総額
該当事項はありません。

ハ. 使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの
該当事項はありません。

ニ. 役員報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針の内容および決定方法

当社の取締役および監査役の報酬等は、株主総会で承認を受けた額（取締役は年額540百万円以内、監査役は月額13百万円以内）の範囲内で決定しております。取締役の報酬については、業務の執行とその監督機能をより明確に区分するため、業務執行の監督に対する部分と、業務執行に対する部分とに分かれており、前者は全ての取締役を対象とし、後者は執行役員兼務の取締役を対象としております。

⑤株式の保有状況

イ. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数および貸借対照表計上額の合計額

138銘柄 20,942百万円

ロ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額および保有目的前事業年度

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
三井物産(株)	3,296,125	4,976	原材料購入、製品販売の重要な取引先であり、安定的な関係構築のため保有
高圧ガス工業(株)	6,906,198	3,676	製品の重要な需要家であり、安定的な関係構築のため保有
アイカ工業(株)	1,229,084	1,202	製品の重要な需要家であり、安定的な関係構築のため保有
積水化成成品工業(株)	2,000,000	888	重要な合弁事業の相手先であり、安定的な関係構築のため保有
(株)みずほフィナンシャルグループ	4,619,000	862	資金調達等の重要な取引先であり、安定的な関係構築のため保有
三井住友海上グループホールディングス(株) (注)	336,000	804	損害保険の主要引受先であり、安定的な関係構築のため保有
ダイセル化学工業(株)	863,000	540	重要な合弁事業の相手先であり、安定的な関係構築のため保有
三井不動産(株)	313,000	488	主要事務所の賃借先であり、安定的な関係構築のため保有
エア・ウォーター(株)	342,000	367	製品の重要な需要家であり、安定的な関係構築のため保有
(株)日本製鋼所	333,000	346	機材・機器購入等の重要な取引先であり、安定的な関係構築のため保有

(注) 三井住友海上グループホールディングス(株)は、2010年4月1日より、あいおい損害保険(株)、ニッセイ同和損害保険(株)との経営統合に伴い、「MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社」になっております。

当事業年度

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
三井物産(株)	3,296,125	4,759	原材料購入、製品販売の重要な取引先であり、安定的な関係構築のため保有
高圧ガス工業(株)	6,906,198	3,273	製品の重要な需要家であり、安定的な関係構築のため保有
アイカ工業(株)	1,229,084	1,315	製品の重要な需要家であり、安定的な関係構築のため保有
(株)みずほフィナンシャルグループ	4,619,000	702	主要な取引金融機関の一つであり、安定的な関係構築のため保有
積水化成成品工業(株)	2,000,000	654	重要な合弁事業の相手先であり、安定的な関係構築のため保有
MS&ADインシュアランスグループホールディングス(株)	336,000	650	損害保険の主要引受先であり、安定的な関係構築のため保有
三井不動産(株)	313,000	473	主要事務所の賃借先であり、安定的な関係構築のため保有

ダイセル化学工業(株)	863,000	427	重要な合併事業の相手先であり、安定的な関係構築のため保有
東ソー(株)	1,367,000	375	重要な合併事業の相手先であり、安定的な関係構築のため保有
エア・ウォーター(株)	342,000	348	製品の重要な需要家であり、安定的な関係構築のため保有
住友大阪セメント(株)	1,430,000	321	重要な事業提携先であり、安定的な関係構築のため保有
(株)日本製鋼所	333,000	233	機材・機器購入等の重要な取引先であり、安定的な関係構築のため保有
コニシ(株)	209,380	229	製品の重要な需要家であり、安定的な関係構築のため保有
日東電工(株)	50,000	221	製品の重要な需要家であり、安定的な関係構築のため保有
三井化学(株)	750,000	208	重要な合併事業の相手先であり、安定的な関係構築のため保有
関東電化工業(株)	320,000	197	地域における主要な関係先であり、安定的な関係構築のため保有
前澤化成工業(株)	187,200	145	製品の重要な需要家であり、安定的な関係構築のため保有
住友ベークライト(株)	280,000	142	製品の重要な需要家であり、安定的な関係構築のため保有
(株)ケー・エフ・シー	200,000	124	重要な事業提携先であり、安定的な関係構築のため保有
豊田合成(株)	67,300	115	製品の重要な需要家であり、安定的な関係構築のため保有
三ツ星ベルト(株)	242,000	110	製品の重要な需要家であり、安定的な関係構築のため保有
大和ハウス工業(株)	100,000	102	製品の重要な需要家であり、安定的な関係構築のため保有
小池酸素工業(株)	449,085	97	製品の重要な需要家であり、安定的な関係構築のため保有
大陽日酸(株)	141,750	95	製品の重要な需要家であり、安定的な関係構築のため保有
堺化学工業(株)	178,000	74	製品の重要な需要家であり、安定的な関係構築のため保有
品川リフラクトリーズ(株)	250,000	68	製品の重要な需要家であり、安定的な関係構築のため保有
日立化成工業(株)	39,550	67	製品の重要な需要家であり、安定的な関係構築のため保有
田辺工業(株)	65,700	38	プラントエンジニアリングに関し、重要な取引先であり、安定的な関係構築のため保有
豊田通商(株)	26,000	35	製品販売の重要な取引先であり、安定的な関係構築のため保有
上原成商事(株)	100,000	31	製品販売の重要な取引先であり、安定的な関係構築のため保有

ハ、保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度および当事業年度における貸借対照表計上額の合計額ならびに当事業年度における受取配当金、売却損益および評価損益の合計額
該当事項はありません。

⑥取締役の定数

当社の取締役は12名以内とする旨を定款に定めております。

⑦取締役の選任および解任の決議の要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもっておこなう旨を定款に定めております。

また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

⑧剰余金の配当等の決定機関

当社は、株主への機動的な利益還元をおこなうため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当をおこなうことができる旨を定款に定めております。

⑨自己株式取得の決定機関

当社は、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を可能とするため、会社法第165条第2項に基づき、取締役会決議による自己株式の取得を可能とする旨を定款で定めております。

⑩株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもっておこなう旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、特別決議事項の審議をより確実におこなうことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

①【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	66	—	65	—
連結子会社	34	—	34	—
計	100	—	99	—

②【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

③【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

④【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、当社の規模や業績等の特性を勘案し、監査に要する作業量を見積もったうえで、監査公認会計士等の独立性が保持されるように監査報酬を決定しております。

第5【経理の状況】

連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前連結会計年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の連結財務諸表および前事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の財務諸表ならびに当連結会計年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の連結財務諸表および当事業年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更についての確に対応できるよう、公益財団法人財務会計基準機構に加入しております。

1 【連結財務諸表等】
 (1) 【連結財務諸表】
 ① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,856	6,258
受取手形及び売掛金	74,843	75,564
商品及び製品	30,973	32,338
仕掛品	2,010	2,356
原材料及び貯蔵品	11,428	12,927
繰延税金資産	2,479	2,075
その他	10,538	12,272
貸倒引当金	△770	△441
流動資産合計	138,360	143,352
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	※1, ※2 49,111	※1, ※2 51,211
機械装置及び運搬具（純額）	※1, ※2 78,874	※1, ※2 81,536
工具、器具及び備品（純額）	※1, ※2 2,343	※1, ※2 2,537
土地	※2, ※4 63,468	※2, ※4 63,507
リース資産（純額）	※1 128	※1 192
建設仮勘定	13,079	4,410
有形固定資産合計	207,005	203,395
無形固定資産		
特許権	101	500
ソフトウェア	693	357
のれん	2,388	1,630
その他	292	261
無形固定資産合計	3,476	2,749
投資その他の資産		
投資有価証券	※2, ※3 39,492	※2, ※3 38,571
長期貸付金	368	509
繰延税金資産	573	1,101
その他	※7 11,441	※7 12,512
貸倒引当金	△310	△146
投資その他の資産合計	51,565	52,548
固定資産合計	262,046	258,693
資産合計	400,407	402,046

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	45,499	48,364
短期借入金	※2 38,327	※2 35,730
コマーシャル・ペーパー	9,000	16,000
1年内返済予定の長期借入金	※2 10,382	※2 8,901
未払法人税等	6,017	3,810
未払消費税等	487	823
繰延税金負債	0	0
賞与引当金	2,091	2,161
その他	※2 38,883	※2 37,618
流動負債合計	150,689	153,410
固定負債		
社債	25,000	25,000
長期借入金	※2 37,866	※2 28,929
繰延税金負債	166	90
再評価に係る繰延税金負債	10,985	10,984
退職給付引当金	6,860	6,855
競争法関連費用引当金	※7 7,390	※7 7,390
その他	1,131	1,202
固定負債合計	89,401	80,453
負債合計	240,091	233,864
純資産の部		
株主資本		
資本金	36,998	36,998
資本剰余金	49,303	49,292
利益剰余金	64,550	73,997
自己株式	△3,662	△3,642
株主資本合計	147,190	156,645
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,361	4,858
繰延ヘッジ損益	—	△6
土地再評価差額金	※4 7,597	※4 7,594
為替換算調整勘定	△2,323	△3,473
その他の包括利益累計額合計	10,634	8,974
少数株主持分	2,491	2,561
純資産合計	160,316	168,182
負債純資産合計	400,407	402,046

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
売上高	323,875	357,893
売上原価	*2 251,411	*2 281,219
売上総利益	72,464	76,673
販売費及び一般管理費		
販売費	20,649	20,784
一般管理費	30,159	31,270
販売費及び一般管理費合計	*1, *2 50,809	*1, *2 52,054
営業利益	21,655	24,618
営業外収益		
受取利息	72	66
受取配当金	565	900
保険返戻金	12	—
固定資産賃貸料	179	—
持分法による投資利益	223	1,189
その他	489	923
営業外収益合計	1,543	3,081
営業外費用		
支払利息	1,701	1,469
為替差損	232	625
固定資産処分損	955	894
退職給付会計基準変更時差異の処理額	1,109	—
操業休止等経費	581	—
その他	1,729	1,658
営業外費用合計	6,310	4,647
経常利益	16,888	23,052
特別損失		
投資有価証券評価損	396	819
事業整理損	652	914
災害による損失	—	288
特別損失合計	1,048	2,021
税金等調整前当期純利益	15,839	21,030
法人税、住民税及び事業税	6,960	6,385
法人税等調整額	△1,644	180
法人税等合計	5,315	6,566
少数株主損益調整前当期純利益	—	14,463
少数株主利益	49	108
当期純利益	10,474	14,355

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	—	14,463
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	△521
繰延ヘッジ損益	—	△6
為替換算調整勘定	—	△1,149
持分法適用会社に対する持分相当額	—	34
その他の包括利益合計	—	※2 △1,642
包括利益	—	※1 12,821
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	—	12,697
少数株主に係る包括利益	—	123

③【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月 31日)		当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月 31日)	
株主資本				
資本金				
前期末残高		36,998		36,998
当期変動額				
当期変動額合計		—		—
当期末残高		36,998		36,998
資本剰余金				
前期末残高		49,303		49,303
当期変動額				
自己株式の処分		0		△10
当期変動額合計		0		△10
当期末残高		49,303		49,292
利益剰余金				
前期末残高		56,581		64,550
当期変動額				
剰余金の配当		△2,455		△4,910
当期純利益		10,474		14,355
持分法の適用範囲の変動		△63		—
土地再評価差額金の取崩		13		2
当期変動額合計		7,968		9,447
当期末残高		64,550		73,997
自己株式				
前期末残高		△3,697		△3,662
当期変動額				
自己株式の取得		△21		△52
自己株式の処分		57		71
当期変動額合計		35		19
当期末残高		△3,662		△3,642
株主資本合計				
前期末残高		139,186		147,190
当期変動額				
剰余金の配当		△2,455		△4,910
当期純利益		10,474		14,355
自己株式の取得		△21		△52
自己株式の処分		57		61
持分法の適用範囲の変動		△63		—
土地再評価差額金の取崩		13		2
当期変動額合計		8,004		9,455
当期末残高		147,190		156,645

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	2,314	5,361
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3,046	△502
当期変動額合計	3,046	△502
当期末残高	5,361	4,858
繰延ヘッジ損益		
前期末残高	—	—
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	—	△6
当期変動額合計	—	△6
当期末残高	—	△6
土地再評価差額金		
前期末残高	7,610	7,597
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△13	△2
当期変動額合計	△13	△2
当期末残高	7,597	7,594
為替換算調整勘定		
前期末残高	△1,510	△2,323
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△813	△1,149
当期変動額合計	△813	△1,149
当期末残高	△2,323	△3,473
その他の包括利益累計額合計		
前期末残高	8,414	10,634
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,219	△1,660
当期変動額合計	2,219	△1,660
当期末残高	10,634	8,974
少数株主持分		
前期末残高	2,542	2,491
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△50	70
当期変動額合計	△50	70
当期末残高	2,491	2,561

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
純資産合計		
前期末残高	150,142	160,316
当期変動額		
剰余金の配当	△2,455	△4,910
当期純利益	10,474	14,355
自己株式の取得	△21	△52
自己株式の処分	57	61
持分法の適用範囲の変動	△63	—
土地再評価差額金の取崩	13	2
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,168	△1,589
当期変動額合計	10,173	7,866
当期末残高	160,316	168,182

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー				
税金等調整前当期純利益		15,839		21,030
減価償却費		20,931		22,292
のれん償却額		813		815
負ののれん償却額		△47		△47
賞与引当金の増減額 (△は減少)		75		69
退職給付引当金の増減額 (△は減少)		839		△4
貸倒引当金の増減額 (△は減少)		268		△492
受取利息及び受取配当金		△637		△967
支払利息		1,701		1,469
持分法による投資損益 (△は益)		△223		△1,189
投資有価証券評価損益 (△は益)		396		819
投資有価証券売却損益 (△は益)		△22		△13
固定資産除売却損益 (△は益)		955		386
売上債権の増減額 (△は増加)		△19,598		△1,075
たな卸資産の増減額 (△は増加)		4,335		△3,572
仕入債務の増減額 (△は減少)		18,346		2,724
事業整理損失		588		914
その他		1,256		△384
小計		45,819		42,772
利息及び配当金の受取額		783		1,070
利息の支払額		△1,720		△1,479
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)		1,535		△8,583
営業活動によるキャッシュ・フロー		46,418		33,780
投資活動によるキャッシュ・フロー				
有形固定資産の取得による支出		△27,262		△23,663
有形固定資産の売却による収入		6		932
無形固定資産の取得による支出		△178		△572
投資有価証券の取得による支出		△595		△781
投資有価証券の売却による収入		51		525
その他		△399		△203
投資活動によるキャッシュ・フロー		△28,377		△23,763

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△7,624	4,826
長期借入れによる収入	3,220	—
長期借入金の返済による支出	△5,349	△10,417
社債の発行による収入	5,000	—
社債の償還による支出	△10,000	—
連結財務諸表提出会社による配当金の支払額	△2,455	△4,910
自己株式の取得による支出	△21	—
少数株主への配当金の支払額	△33	△53
その他	1	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△17,262	△10,554
現金及び現金同等物に係る換算差額	△40	△118
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	738	△655
現金及び現金同等物の期首残高	※ 6,077	※ 6,815
現金及び現金同等物の期末残高	※ 6,815	※ 6,160

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

項目	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
1. 連結の範囲に関する事項	<p>(イ) 連結子会社の数 28社 主要な連結子会社名は、「第1 企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載のとおりです。 当連結会計年度より、デンカケミカルズホールディングスアジアパシフィックP.L.を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。</p> <p>(ロ) 主要な非連結子会社の名称等 主要な非連結子会社 蒲原生コン㈱ 大間々デンカ生コン㈱ (連結の範囲から除いた理由) 非連結子会社は、いずれも小規模であり、総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)および利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。</p>	<p>(イ) 連結子会社の数 27社 主要な連結子会社名は、「第1 企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載のとおりです。 当連結会計年度より、清算手続きが終了したことから、浅見産業㈱を連結の範囲から除外しております。</p> <p>(ロ) 主要な非連結子会社の名称等 主要な非連結子会社 同左 (連結の範囲から除いた理由) 同左</p>
2. 持分法の適用に関する事項	<p>(イ) 持分法適用の非連結子会社数 2社 主要な会社名 蒲原生コン㈱、三信物産㈱</p> <p>(ロ) 持分法適用の関連会社数 13社 主要な持分法適用の関連会社名は、「第1 企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載のとおりです。 当連結会計年度末より、清算業務の進展により重要性が低下したことから帝酸アセチレン㈱および藤中産業㈱を持分法の適用から除外しております。</p> <p>(ハ) 持分法を適用していない非連結子会社および関連会社(主な非連結子会社、大間々デンカ生コン㈱、主な関連会社、庄川生コンクリート㈱)は、それぞれ連結損益および利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても連結財務諸表に重要な影響を及ぼしておりません。</p>	<p>(イ) 持分法適用の非連結子会社数 2社 主要な会社名 同左</p> <p>(ロ) 持分法適用の関連会社数 13社 主要な持分法適用の関連会社名は、「第1 企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載のとおりです。</p> <p>(ハ) 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<p>3. 連結子会社の事業年度等に関する事項</p>	<p>(二) 持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、各社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。</p> <p>連結子会社のうち金沢デンカ生コン(株)、デンカ生コン高山(株)、(有)黒姫総業、(有)姫川産業、(有)青海メンテナンス、(有)房総産業、(有)群馬産業、(有)デンカコスメティクス、デンカケミカルズホールディングスアジアパシフィックP.L.、デンカシンガポールP.L. およびデンカアドバンテックP.L. の決算日は12月31日であり、連結財務諸表の作成にあたっては12月31日現在の決算財務諸表を使用しております。</p> <p>11社については、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。</p>	<p>(二) 同左</p> <p>(会計方針の変更)</p> <p>当連結会計年度より、「持分法に関する会計基準」(企業会計基準第16号平成20年3月10日公表分)及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第24号平成20年3月10日)を適用し、連結決算上必要な修正を行っております。</p> <p>なお、これによる当連結会計年度の経常利益および税金等調整前当期純利益に与える影響はありません。</p> <p>同左</p>
<p>4. 会計処理基準に関する事項</p> <p>(1) 重要な資産の評価基準および評価方法</p>	<p>(a) 有価証券</p> <p>その他有価証券 時価のあるもの</p> <p>主として期末日前1ヶ月間の市場価格の平均に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定)</p> <p>時価のないもの</p> <p>主として移動平均法による原価法</p> <p>(b) デリバティブ</p> <hr/>	<p>(a) 有価証券</p> <p>その他有価証券 時価のあるもの</p> <p>同左</p> <p>時価のないもの</p> <p>同左</p> <p>(b) デリバティブ 時価法</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p> <p>(3) 重要な引当金の計上基準</p>	<p>(c) たな卸資産 商品及び製品・仕掛品・原材料及び貯蔵品 主として総平均法による原価法 (貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)</p> <p>有形固定資産(リース資産を除く) 主として定額法 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物及び構築物 8～50年 機械装置及び運搬具 4～20年</p> <p>無形固定資産(リース資産を除く) 主として定額法 (自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。)</p> <p>リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>(a) 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については、貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(b) 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、主として支給見込額に基づき計上しております。</p>	<p>(c) たな卸資産 商品及び製品・仕掛品・原材料及び貯蔵品 同左</p> <p>有形固定資産(リース資産を除く) 同左</p> <p>無形固定資産(リース資産を除く) 同左</p> <p>リース資産 同左</p> <p>(a) 貸倒引当金 同左</p> <p>(b) 賞与引当金 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
	<p>(c) 退職給付引当金</p> <p>従業員の退職給付に備えて、当連結会計年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき計上しております。</p> <p>なお、会計基準変更時差異(12,581百万円)については、主として10年による按分額を費用処理しております。</p> <p>過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数(主として10年)による定額法により費用処理しております。</p> <p>数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(主として10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。</p> <p>(会計方針の変更)</p> <p>当連結会計年度より、「「退職給付に係る会計基準」の一部改正(その3)」(企業会計基準第19号 平成20年7月31日)を適用しております。なお、これによる当連結会計年度の損益に与える影響はありません。</p> <p>(d) 競争法関連費用引当金</p> <p>EU競争法関連費用として、今後発生する可能性のある損失見積額を引当金として計上しております。</p> <p>—————</p>	<p>(c) 退職給付引当金</p> <p>従業員の退職給付に備えて、当連結会計年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき計上しております。</p> <p>過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数(主として10年)による定額法により費用処理しております。</p> <p>数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(主として10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。</p> <p>—————</p> <p>(d) 競争法関連費用引当金</p> <p>同左</p> <p>ヘッジ会計の方法</p> <p>繰延ヘッジ処理によっております。なお、金利スワップについては、特例処理の要件を満たしているため特例処理を行っております。また振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理を行っております。</p> <p>のれんの償却については、5年間の定額法により償却を行っております。</p> <p>連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金および容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資等からなっております。</p>
(4) 重要なヘッジ会計の方法	—————	ヘッジ会計の方法
(5) のれんの償却方法及び償却期間	—————	のれんの償却については、5年間の定額法により償却を行っております。
(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	—————	連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金および容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資等からなっております。

項目	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項	消費税等の会計処理方法 主として税抜方式によっております。	消費税等の会計処理方法 同左
5. 連結子会社の資産および負債の評価に関する事項	連結子会社の資産および負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。	_____
6. のれんおよび負ののれんの償却に関する事項	のれんおよび負ののれんの償却については、5年間で均等償却しております。	_____
7. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金および容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資等からなっております。	_____

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
_____	(「資産除去債務に関する会計基準」の適用) 当連結会計年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。 なお、これによる当連結会計年度の営業利益、経常利益および税金等調整前当期純利益に与える影響は軽微であります。
_____	(「企業結合に関する会計基準」等の適用) 当連結会計年度より、「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)、「研究開発費等に係る会計基準」の一部改正(企業会計基準第23号 平成20年12月26日)、「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成20年12月26日)、「持分法に関する会計基準」(企業会計基準第16号 平成20年12月26日公表分)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)を適用しております。

【表示方法の変更】

<p>前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)</p>
<p>(連結損益計算書)</p> <p>営業外収益の「固定資産賃貸料」は、前連結会計年度は「その他」に含めて表示しておりましたが、金額的重要性が増したため区分掲記しております。</p> <p>なお、前連結会計年度の「その他」に含まれている「固定資産賃貸料」は125百万円であります。</p> <p>(連結キャッシュ・フロー計算書)</p> <p>営業活動によるキャッシュ・フローの「事業整理損失」は、前連結会計年度は「その他」に含めて表示しておりましたが、金額的重要性が増したため区分掲記しております。</p> <p>なお、前連結会計年度の「その他」に含まれている「事業整理損失」は208百万円であります。</p>	<p>(連結損益計算書)</p> <p>(1) 当連結会計年度より、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づき、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日内閣府令第5号)を適用し、「少数株主損益調整前当期純利益」の科目で表示しております。</p> <p>(2) 前連結会計年度において、区分掲記しておりました「保険返戻金」(当連結会計年度は41百万円)は、以前より営業外収益総額の100分の10以下となっており、金額的重要性が低いことから、営業外収益の「その他」に含めて表示することとしました。</p> <p>(3) 前連結会計年度において、区分掲記しておりました「固定資産賃貸料」(当連結会計年度は209百万円)は、営業外収益総額の100分の10以下となったため、営業外収益の「その他」に含めて表示することとしました。</p> <p>(4) 前連結会計年度において、区分掲記しておりました「操業休止等経費」(当連結会計年度は321百万円)は、営業外費用総額の100分の10以下となったため、営業外費用の「その他」に含めて表示することとしました。</p> <p>(連結キャッシュ・フロー計算書)</p> <p>前連結会計年度において、区分掲記しておりました財務活動によるキャッシュ・フローの「自己株式の取得による支出」は、金額的重要性が低いことから、「その他」に含めております。</p> <p>なお、当連結会計年度の「その他」に含まれている「自己株式の取得による支出」は△52百万円であります。</p>

【追加情報】

<p>前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)</p>
<p>—————</p>	<p>当連結会計年度より、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用しております。ただし、「その他の包括利益累計額」及び「その他の包括利益累計額合計」の前連結会計年度の金額は、「評価・換算差額等」及び「評価・換算差額等合計」の金額を記載しております。</p>

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)																																								
<p>※1 有形固定資産の減価償却累計額は次のとおりであります。</p> <p style="text-align: right;">減価償却累計額 329,260百万円</p> <p>※2 このうち借入金の担保に供しているのは次のとおりであります。</p> <p>(イ) 担保提供資産簿価</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">34,365百万円 (34,220百万円)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・機械装置及び運搬具</td> <td style="text-align: right;">56,337 〃 (56,337 〃)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">846 〃 (846 〃)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・土地</td> <td style="text-align: right;">22,767 〃 (22,741 〃)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・投資有価証券</td> <td style="text-align: right;">972 〃 (－ 〃)</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black; padding-left: 40px;">計</td> <td style="border-top: 1px solid black; text-align: right;">115,289 〃 (114,145 〃)</td> </tr> </table> <p>(ロ) 担保提供資産に対応する債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・短期借入金</td> <td style="text-align: right;">60百万円 (－百万円)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・長期借入金 (1年以内返済予定含む)</td> <td style="text-align: right;">102 〃 (－ 〃)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・その他流動負債</td> <td style="text-align: right;">1,400百万円 (－百万円)</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black; padding-left: 40px;">計</td> <td style="border-top: 1px solid black; text-align: right;">1,562 〃 (－ 〃)</td> </tr> </table> <p>上記のうち () 内書は工場財団抵当ならびに当該債務を示しております。</p> <p>※3 非連結子会社および関連会社に対するものは次のとおりであります。</p> <p style="padding-left: 20px;">・投資有価証券(株式) 14,255百万円</p>	・建物及び構築物	34,365百万円 (34,220百万円)	・機械装置及び運搬具	56,337 〃 (56,337 〃)	・工具、器具及び備品	846 〃 (846 〃)	・土地	22,767 〃 (22,741 〃)	・投資有価証券	972 〃 (－ 〃)	計	115,289 〃 (114,145 〃)	・短期借入金	60百万円 (－百万円)	・長期借入金 (1年以内返済予定含む)	102 〃 (－ 〃)	・その他流動負債	1,400百万円 (－百万円)	計	1,562 〃 (－ 〃)	<p>※1 有形固定資産の減価償却累計額は次のとおりであります。</p> <p style="text-align: right;">減価償却累計額 336,354百万円</p> <p>※2 このうち借入金の担保に供しているのは次のとおりであります。</p> <p>(イ) 担保提供資産簿価</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">36,159百万円 (36,106百万円)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・機械装置及び運搬具</td> <td style="text-align: right;">60,980 〃 (60,980 〃)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">803 〃 (803 〃)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・土地</td> <td style="text-align: right;">22,897 〃 (22,782 〃)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・投資有価証券</td> <td style="text-align: right;">1,006 〃 (－ 〃)</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black; padding-left: 40px;">計</td> <td style="border-top: 1px solid black; text-align: right;">121,848 〃 (120,673 〃)</td> </tr> </table> <p>(ロ) 担保提供資産に対応する債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・短期借入金</td> <td style="text-align: right;">60百万円 (－百万円)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・長期借入金 (1年以内返済予定含む)</td> <td style="text-align: right;">90 〃 (－ 〃)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・その他流動負債</td> <td style="text-align: right;">1,321百万円 (－百万円)</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black; padding-left: 40px;">計</td> <td style="border-top: 1px solid black; text-align: right;">1,471 〃 (－ 〃)</td> </tr> </table> <p>上記のうち () 内書は工場財団抵当ならびに当該債務を示しております。</p> <p>※3 非連結子会社および関連会社に対するものは次のとおりであります。</p> <p style="padding-left: 20px;">・投資有価証券(株式) 15,543百万円</p>	・建物及び構築物	36,159百万円 (36,106百万円)	・機械装置及び運搬具	60,980 〃 (60,980 〃)	・工具、器具及び備品	803 〃 (803 〃)	・土地	22,897 〃 (22,782 〃)	・投資有価証券	1,006 〃 (－ 〃)	計	121,848 〃 (120,673 〃)	・短期借入金	60百万円 (－百万円)	・長期借入金 (1年以内返済予定含む)	90 〃 (－ 〃)	・その他流動負債	1,321百万円 (－百万円)	計	1,471 〃 (－ 〃)
・建物及び構築物	34,365百万円 (34,220百万円)																																								
・機械装置及び運搬具	56,337 〃 (56,337 〃)																																								
・工具、器具及び備品	846 〃 (846 〃)																																								
・土地	22,767 〃 (22,741 〃)																																								
・投資有価証券	972 〃 (－ 〃)																																								
計	115,289 〃 (114,145 〃)																																								
・短期借入金	60百万円 (－百万円)																																								
・長期借入金 (1年以内返済予定含む)	102 〃 (－ 〃)																																								
・その他流動負債	1,400百万円 (－百万円)																																								
計	1,562 〃 (－ 〃)																																								
・建物及び構築物	36,159百万円 (36,106百万円)																																								
・機械装置及び運搬具	60,980 〃 (60,980 〃)																																								
・工具、器具及び備品	803 〃 (803 〃)																																								
・土地	22,897 〃 (22,782 〃)																																								
・投資有価証券	1,006 〃 (－ 〃)																																								
計	121,848 〃 (120,673 〃)																																								
・短期借入金	60百万円 (－百万円)																																								
・長期借入金 (1年以内返済予定含む)	90 〃 (－ 〃)																																								
・その他流動負債	1,321百万円 (－百万円)																																								
計	1,471 〃 (－ 〃)																																								

前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)																																																
<p>※4 当社は、土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）に基づき、事業用の土地の再評価をおこない、土地再評価差額金を純資産の部に計上しております。</p> <p style="padding-left: 2em;">再評価の方法</p> <p style="padding-left: 2em;">土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第3号に定める固定資産税評価額および第2条第4号に定める路線価に基づき、これに合理的な調整をおこなって算出する方法によっております。</p> <p style="padding-left: 2em;">再評価を行った年月日 平成14年3月31日</p>	<p>※4 当社は、土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）に基づき、事業用の土地の再評価をおこない、土地再評価差額金を純資産の部に計上しております。</p> <p style="padding-left: 2em;">再評価の方法</p> <p style="text-align: right; padding-left: 10em;">同左</p>																																																
<p>5 偶発債務</p> <p>保証債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">(相手先)</th> <th colspan="2" style="text-align: left;">(保証内容)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>デンカAGSP(株)</td> <td>銀行保証</td> <td>400百万円</td> </tr> <tr> <td>電化精細材料(蘇州)有限公司</td> <td>"</td> <td>291 "</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(240万米ドル他)</td> </tr> <tr> <td>デンカコンクリート(株)</td> <td>"</td> <td>130百万円</td> </tr> <tr> <td>大間々デンカ生コン(株)</td> <td>"</td> <td>100 "</td> </tr> <tr> <td>その他4社</td> <td>"</td> <td>247 "</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td></td> <td style="border-top: 1px solid black;">1,169 "</td> </tr> </tbody> </table>	(相手先)	(保証内容)		デンカAGSP(株)	銀行保証	400百万円	電化精細材料(蘇州)有限公司	"	291 "			(240万米ドル他)	デンカコンクリート(株)	"	130百万円	大間々デンカ生コン(株)	"	100 "	その他4社	"	247 "	計		1,169 "	<p>5 偶発債務</p> <p>保証債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">(相手先)</th> <th colspan="2" style="text-align: left;">(保証内容)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電化精細材料(蘇州)有限公司</td> <td>銀行保証</td> <td>169百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(195万米ドル他)</td> </tr> <tr> <td>デンカコンクリート(株)</td> <td>"</td> <td>121百万円</td> </tr> <tr> <td>中央生コンクリート(株)</td> <td>"</td> <td>78 "</td> </tr> <tr> <td>大間々デンカ生コン(株)</td> <td>"</td> <td>75 "</td> </tr> <tr> <td>その他2社</td> <td>"</td> <td>163 "</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td></td> <td style="border-top: 1px solid black;">607 "</td> </tr> </tbody> </table>	(相手先)	(保証内容)		電化精細材料(蘇州)有限公司	銀行保証	169百万円			(195万米ドル他)	デンカコンクリート(株)	"	121百万円	中央生コンクリート(株)	"	78 "	大間々デンカ生コン(株)	"	75 "	その他2社	"	163 "	計		607 "
(相手先)	(保証内容)																																																
デンカAGSP(株)	銀行保証	400百万円																																															
電化精細材料(蘇州)有限公司	"	291 "																																															
		(240万米ドル他)																																															
デンカコンクリート(株)	"	130百万円																																															
大間々デンカ生コン(株)	"	100 "																																															
その他4社	"	247 "																																															
計		1,169 "																																															
(相手先)	(保証内容)																																																
電化精細材料(蘇州)有限公司	銀行保証	169百万円																																															
		(195万米ドル他)																																															
デンカコンクリート(株)	"	121百万円																																															
中央生コンクリート(株)	"	78 "																																															
大間々デンカ生コン(株)	"	75 "																																															
その他2社	"	163 "																																															
計		607 "																																															
<p>6 当社は、運転資金の効率的な調達をおこなうため、取引銀行4行と貸出コミットメント契約を締結しております。この契約に基づく当連結会計年度の末日の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="padding-left: 2em;">貸出コミットメントの総額</td> <td style="text-align: right;">20,000百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 2em;">借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">— "</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black; padding-left: 2em;">差引額</td> <td style="border-top: 1px solid black; text-align: right;">20,000 "</td> </tr> </tbody> </table>	貸出コミットメントの総額	20,000百万円	借入実行残高	— "	差引額	20,000 "	<p>6 当社は、運転資金の効率的な調達をおこなうため、取引銀行4行と貸出コミットメント契約を締結しております。この契約に基づく当連結会計年度の末日の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="padding-left: 2em;">貸出コミットメントの総額</td> <td style="text-align: right;">20,000百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 2em;">借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">— "</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black; padding-left: 2em;">差引額</td> <td style="border-top: 1px solid black; text-align: right;">20,000 "</td> </tr> </tbody> </table>	貸出コミットメントの総額	20,000百万円	借入実行残高	— "	差引額	20,000 "																																				
貸出コミットメントの総額	20,000百万円																																																
借入実行残高	— "																																																
差引額	20,000 "																																																
貸出コミットメントの総額	20,000百万円																																																
借入実行残高	— "																																																
差引額	20,000 "																																																
<p>※7 競争法関連費用引当金</p> <p>当社および当社子会社デンカケミカルズ社（本社：ドイツ デュッセルドルフ）は、平成19年12月5日（日本時間）に、欧州における1993（平成5）年から2002（平成14）年までのクロロプレンゴムの販売に関して競争制限行為があったとして、欧州委員会より4,700万ユーロの課徴金賦課の決定通知を受領致しました。</p> <p>平成20年3月5日（日本時間）に通知額と同額を欧州委員会に支払い、投資その他の資産の「その他」に計上しておりますが、当社およびデンカケミカルズ社は競争制限行為をおこなった意図はなく、かつ事実認識も異なるため、平成20年2月19日（日本時間）に欧州第一審裁判所に提訴いたしました。</p> <p>なお、本件は現在係争中であり結審しておりませんが、今後発生する可能性のある損失に備え、当該決定通知額の全額（支払日の為替レートで7,390百万円）を引当計上しております。</p>	<p>※7 競争法関連費用引当金</p> <p style="text-align: right;">同左</p>																																																

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
※1 販売費及び一般管理費の主要な費目 (1) 販売費 運賃・保管費用 14,984百万円 販売手数料 3,594 " その他販売雑費 2,070 " 計 20,649 " (2) 一般管理費 給料手当 10,986百万円 福利厚生費 496 " 技術研究費 7,421 " その他 11,255 " 計 30,159 " (3) 主な引当金繰入額 [上記(1)・(2)の内数] (賞与引当金繰入額) 1,131百万円 (退職給付引当金繰入額) 495 " ※2 一般管理費および当期製造費用に含まれる研究開発費 9,615百万円	※1 販売費及び一般管理費の主要な費目 (1) 販売費 運賃・保管費用 15,511百万円 販売手数料 3,624 " その他販売雑費 1,648 " 計 20,784 " (2) 一般管理費 給料手当 10,291百万円 福利厚生費 484 " 技術研究費 7,563 " その他 12,931 " 計 31,270 " (3) 主な引当金繰入額 [上記(1)・(2)の内数] (賞与引当金繰入額) 1,094百万円 (退職給付引当金繰入額) 584 " ※2 一般管理費および当期製造費用に含まれる研究開発費 9,819百万円

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

※1 当連結会計年度の直前連結会計年度における包括利益	
親会社株主に係る包括利益	12,707百万円
少数株主に係る包括利益	138 "
計	12,846 "
※2 当連結会計年度の直前連結会計年度におけるその他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	3,013百万円
為替換算調整勘定	△813 "
持分法適用会社に対する持分相当額	122 "
計	2,322 "

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1. 発行済株式の種類および総数ならびに自己株式の種類および株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	505,818	—	—	505,818
合計	505,818	—	—	505,818
自己株式				
普通株式(注)	14,801	65	5	14,861
合計	14,801	65	5	14,861

(注) 普通株式の自己株式の増加株式数は、単元未満株式の買い取りによるものであり、普通株式の自己株式の減少株式数は単元未満株式の売り渡しによるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年6月23日 定時株主総会	普通株式	982	2.00	平成21年3月31日	平成21年6月24日
平成21年11月5日 取締役会	普通株式	1,472	3.00	平成21年9月30日	平成21年12月2日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月22日 定時株主総会	普通株式	2,455	利益剰余金	5.00	平成22年3月31日	平成22年6月23日

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 発行済株式の種類および総数ならびに自己株式の種類および株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数（千株）	当連結会計年度増 加株式数（千株）	当連結会計年度減 少株式数（千株）	当連結会計年度末 株式数（千株）
発行済株式				
普通株式	505,818	—	—	505,818
合計	505,818	—	—	505,818
自己株式				
普通株式（注）	14,861	133	127	14,867
合計	14,861	133	127	14,867

（注）普通株式の自己株式の増加は、単元未満株式の買い取りによるものであり、普通株式の自己株式の減少は連結子会社が保有する親会社株式の売却および単元未満株式の売渡しによるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成22年6月22日 定時株主総会	普通株式	2,455	5.00	平成22年3月31日	平成22年6月23日
平成22年11月8日 取締役会	普通株式	2,455	5.00	平成22年9月30日	平成22年12月3日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの次のとおり、決議を予定しております。

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	配当の原資	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成23年6月22日 定時株主総会	普通株式	2,454	利益剰余金	5.00	平成23年3月31日	平成23年6月23日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

前連結会計年度 （自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）	当連結会計年度 （自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）
※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年3月31日現在)	※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年3月31日現在)
現金及び預金 6,856 百万円	現金及び預金 6,258 百万円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金 $\Delta 40$ "	預入期間が3ヶ月を超える 定期預金 $\Delta 98$ "
現金及び現金同等物 6,815 "	現金及び現金同等物 6,160 "

(リース取引関係)

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)																																																																
<p>1. 所有権移転外ファイナンス・リース取引</p> <p>①リース資産の内容 有形固定資産 主として機能・加工製品事業における機械及び装置であります。</p> <p>②リース資産の減価償却の方法 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。</p> <p>なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額および期末残高相当額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額 (百万円)</th> <th>減価償却累計額相当額 (百万円)</th> <th>期末残高相当額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td>509</td> <td>407</td> <td>101</td> </tr> <tr> <td>機械及び装置</td> <td>2,900</td> <td>1,988</td> <td>911</td> </tr> <tr> <td>車両及び運搬具</td> <td>162</td> <td>122</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td>493</td> <td>389</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td>無形固定資産その他</td> <td>84</td> <td>69</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,151</td> <td>2,977</td> <td>1,173</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。</p> <p>(2) 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額</p> <table> <tr> <td>1年内</td> <td>933百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>239 "</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,173 "</td> </tr> </table> <p>(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。</p>		取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)	建物及び構築物	509	407	101	機械及び装置	2,900	1,988	911	車両及び運搬具	162	122	40	工具、器具及び備品	493	389	104	無形固定資産その他	84	69	15	合計	4,151	2,977	1,173	1年内	933百万円	1年超	239 "	合計	1,173 "	<p>1. 所有権移転外ファイナンス・リース取引</p> <p>①リース資産の内容 有形固定資産 同左</p> <p>②リース資産の減価償却の方法 同左</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額および期末残高相当額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額 (百万円)</th> <th>減価償却累計額相当額 (百万円)</th> <th>期末残高相当額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械及び装置</td> <td>800</td> <td>629</td> <td>170</td> </tr> <tr> <td>車両及び運搬具</td> <td>34</td> <td>26</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td>290</td> <td>247</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>無形固定資産その他</td> <td>35</td> <td>29</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,160</td> <td>932</td> <td>228</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。</p> <p>(2) 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額</p> <table> <tr> <td>1年内</td> <td>121百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>106 "</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>228 "</td> </tr> </table> <p>(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。</p>		取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)	機械及び装置	800	629	170	車両及び運搬具	34	26	8	工具、器具及び備品	290	247	43	無形固定資産その他	35	29	6	合計	1,160	932	228	1年内	121百万円	1年超	106 "	合計	228 "
	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)																																																														
建物及び構築物	509	407	101																																																														
機械及び装置	2,900	1,988	911																																																														
車両及び運搬具	162	122	40																																																														
工具、器具及び備品	493	389	104																																																														
無形固定資産その他	84	69	15																																																														
合計	4,151	2,977	1,173																																																														
1年内	933百万円																																																																
1年超	239 "																																																																
合計	1,173 "																																																																
	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)																																																														
機械及び装置	800	629	170																																																														
車両及び運搬具	34	26	8																																																														
工具、器具及び備品	290	247	43																																																														
無形固定資産その他	35	29	6																																																														
合計	1,160	932	228																																																														
1年内	121百万円																																																																
1年超	106 "																																																																
合計	228 "																																																																

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額および減損損失 支払リース料 827百万円 減価償却費相当額 827 〃	(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額および減損損失 支払リース料 631百万円 減価償却費相当額 631 〃
(4) 減価償却費相当額の算定方法 主としてリース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。 (減損損失について) リース資産に配分された減損損失はありません。	(4) 減価償却費相当額の算定方法 同左 (減損損失について) 同左

(金融商品関係)

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループでは、必要な資金を銀行借入や社債、コマーシャル・ペーパーを適宜組み合わせで調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びリスク

営業債権である受取手形および売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また外貨建ての営業債権は、同じ外貨建ての買掛金の残高の範囲内にあるものを除き、為替の変動リスクに晒されております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。営業債務である支払手形および買掛金は、概ね3ヶ月以内の支払期日であります。一部外貨建てのものについては、同じ外貨建ての売掛金の残高の範囲内にあるものを除き、為替の変動リスクに晒されております。

借入金、社債、コマーシャル・ペーパーの用途は運転資金（主として短期）および設備投資資金（主として長期）であり、一部の長期借入金の金利変動リスクに対して金利スワップ取引を実施して支払利息の固定化を実施しております。なお、デリバティブは内部管理規定に従い、実需の範囲でおこなうこととしております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスクの管理

当社グループでは、内部管理規定に従い、各事業部門における営業部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

デリバティブ取引については、取引相手先を信用度の高い金融機関に限定しているため、相手先の契約不履行によるリスクはほとんどないと認識しております。

②市場リスクの管理

当社グループでは、借入金及び社債に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。投資有価証券については、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

③資金調達に係る流動性リスク

当社グループでは、各部署からの報告に基づき担当部長が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手元流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。
なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（注2）参照。

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	6,856	6,856	—
(2) 受取手形及び売掛金	74,843	74,843	—
(3) 投資有価証券 その他有価証券	19,116	19,116	—
資産計	100,816	100,816	—
(1) 支払手形及び買掛金	45,499	45,499	—
(2) 短期借入金	38,327	38,327	—
(3) コマーシャル・ペーパー	9,000	9,000	—
(4) 長期借入金	48,249	49,038	788
(5) 社債	25,000	25,427	427
負債計	166,076	167,292	1,216
デリバティブ取引	—	—	—

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1)(2) 現金及び預金、並びに受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負 債

(1)(2)(3) 支払手形及び買掛金、短期借入金、コマーシャル・ペーパー

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金

これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規調達を行った場合に想定される利率で割引いて算出する方法によっております。変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており（下記デリバティブ取引参照）、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられる利率で割引いて算出する方法によっております。

(5) 社債

これらの時価については、市場価格によっております。

デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております（上記(4)参照）。

(注2) 非上場株式等（連結貸借対照表計上額20,375百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もる事が出来ず、時価を把握する事が極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券その他有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
預金	6,830	—	—	—
受取手形及び売掛金	74,843	—	—	—
合計	81,673	—	—	—

(注4) 社債及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「社債明細表」及び「借入金等明細表」をご参照下さい。

(追加情報)

当連結会計年度より、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)および「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日)を適用しております。

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループでは、必要な資金を銀行借入や社債、コマーシャル・ペーパーを適宜組み合わせ合わせて調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びリスク

営業債権である受取手形および売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また外貨建ての営業債権は、同じ外貨建ての買掛金の残高の範囲内にあるものを除き、為替の変動リスクに晒されております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。営業債務である支払手形および買掛金は、概ね3ヶ月以内の支払期日であります。一部外貨建てのものについては、同じ外貨建ての売掛金の残高の範囲内にあるものを除き、為替の変動リスクに晒されております。

借入金、社債、コマーシャル・ペーパーの用途は運転資金(主として短期)および設備投資資金(主として長期)であり、一部の長期借入金の金利変動リスクに対して金利スワップ取引を実施して支払利息の固定化を実施しております。また、一部の外貨建設備未払金に係る為替変動リスクをヘッジする目的で、先物為替予約取引を行っております。なお、デリバティブは内部管理規定に従い、実需の範囲でおこなうこととしております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスクの管理

当社グループでは、内部管理規定に従い、各事業部門における営業部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

デリバティブ取引については、取引相手先を信用度の高い金融機関に限定しているため、相手先の契約不履行によるリスクはほとんどないと認識しております。

②市場リスクの管理

当社グループでは、借入金及び社債に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。投資有価証券については、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。また一部の外貨建設備未払金について、為替の変動リスクに対して先物為替予約取引を利用してヘッジしております。

③資金調達に係る流動性リスク

当社グループでは、各部署からの報告に基づき担当部長が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手元流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成23年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。
なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（注2）参照）。

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	6,258	6,258	—
(2) 受取手形及び売掛金	75,564	75,564	—
(3) 投資有価証券 その他有価証券	17,857	17,857	—
資産計	99,680	99,680	—
(1) 支払手形及び買掛金	48,364	48,364	—
(2) 短期借入金	35,730	35,730	—
(3) コマーシャル・ペーパー	16,000	16,000	—
(4) 長期借入金	37,831	38,527	695
(5) 社債	25,000	25,426	426
負債計	162,926	164,048	1,121
デリバティブ取引 (*1)	(6)	(6)	—

(*1) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については () で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、並びに受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負 債

(1) (2) (3) 支払手形及び買掛金、短期借入金、コマーシャル・ペーパー

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金

これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規調達を行った場合に想定される利率で割引いて算出する方法によっております。変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており（下記デリバティブ取引参照）、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられる利率で割引いて算出する方法によっております。

(5) 社債

これらの時価については、市場価格によっております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

(注2) 非上場株式等（連結貸借対照表計上額20,714百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もる事が出来ず、時価を把握する事が極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券その他有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
預金	6,226	—	—	—
受取手形及び売掛金	75,564	—	—	—
合計	81,791	—	—	—

(注4) 社債及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「社債明細表」及び「借入金等明細表」をご参照下さい。

(有価証券関係)

前連結会計年度

1. 売買目的有価証券（平成22年3月31日現在）
該当ありません。
2. 満期保有目的の債券（平成22年3月31日現在）
該当ありません。
3. その他有価証券（平成22年3月31日現在）

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの	(1) 株式	17,568	8,387	9,180
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	17,568	8,387	9,180
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの	(1) 株式	1,548	1,888	△340
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	1,548	1,888	△340
合計		19,116	10,276	8,840

4. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）
売却損益の合計額の金額の重要性が乏しいため、記載を省略しております。
5. 減損処理を行った有価証券
当連結会計年度において、その他有価証券の株式について396百万円減損処理を行っております。
なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合は全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

当連結会計年度

1. 売買目的有価証券（平成23年3月31日現在）
該当ありません。
2. 満期保有目的の債券（平成23年3月31日現在）
該当ありません。
3. その他有価証券（平成23年3月31日現在）

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの	(1) 株式	15,337	7,061	8,275
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	15,337	7,061	8,275
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの	(1) 株式	2,520	2,851	△331
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	2,520	2,851	△331
合計		17,857	9,913	7,944

4. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）
売却損益の合計額の金額の重要性が乏しいため、記載を省略しております。
5. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、その他有価証券の株式のうち時価のあるものについて272百万円減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合は全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

当社グループは、ヘッジ会計が適用されている「為替予約取引」、「金利スワップ取引」および「通貨スワップ取引」のみをおこなっているため、該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	前連結会計年度(平成22年3月31日)		
			契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例 処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	33,560	26,500	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

当社グループは、ヘッジ会計が適用されている「為替予約取引」、「金利スワップ取引」および「通貨スワップ取引」のみをおこなっているため、該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	当連結会計年度(平成23年3月31日)		
			契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例 処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	26,500	19,440	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

通貨関連

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	当連結会計年度(平成23年3月31日)		
			契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	為替予約取引 買建 ユーロ	設備未払金	158	22	△6

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社および国内連結子会社は、確定給付企業年金制度および退職一時金制度を設けております。また、一部の国内連結子会社では、中小企業退職金共済制度を採用しております。

なお、当社は、平成21年3月に確定給付型適格退職年金制度から確定給付企業年金制度へ移行しております。

2. 退職給付債務およびその内訳

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
(1) 退職給付債務 (百万円)	△23,673	△23,793
(2) 年金資産 (百万円)	14,722	15,041
(3) 未積立退職給付債務 (百万円) (1) + (2)	△8,951	△8,752
(4) 未認識過去勤務債務 (百万円)	39	27
(5) 未認識数理計算上の差異他 (百万円)	2,050	1,869
(6) 退職給付引当金 (百万円) (3) + (4) + (5)	△6,860	△6,855

(注) 一部の子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用の内訳

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
(1) 勤務費用 (百万円)	1,162	1,242
(2) 利息費用 (百万円)	331	321
(3) 期待運用収益 (百万円)	△204	△209
(4) 会計基準変更時差異の費用処理額 (百万円)	1,117	—
(5) 過去勤務債務の費用処理額 (百万円)	7	5
(6) 数理計算上の差異費用処理額他 (百万円)	601	482
(7) 退職給付費用(百万円) (1) + (2) + (3) + (4) + (5) + (6)	3,015	1,843

(注) 1. 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は「(1) 勤務費用」に計上しております。

2. 中小企業退職金共済制度を採用している連結子会社の掛金および勤続加算金は「(6) 数理計算上の差異費用処理額他」に含めております。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
(1) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	期間定額基準
(2) 割引率	主として1.4%	主として1.4%
(3) 期待運用収益率	主として1.4%	主として1.4%
(4) 過去勤務債務の額の処理年数	主として10年	主として10年
(5) 数理計算上の差異の処理年数	主として10年	主として10年
(6) 会計基準変更時差異の処理年数	主として10年	—

(税効果会計関係)

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

前連結会計年度 (平成22年3月31日)		当連結会計年度 (平成23年3月31日)	
繰延税金資産		繰延税金資産	
貸倒引当金	286百万円	貸倒引当金	148百万円
未払事業税等	506 "	未払事業税等	353 "
長期未払金	171 "	長期未払金	111 "
退職給付引当金	2,718 "	退職給付引当金	2,720 "
競争法関連費用引当金	2,956 "	競争法関連費用引当金	2,956 "
賞与引当金	855 "	賞与引当金	887 "
たな卸資産及び固定資産未実現損益	375 "	たな卸資産及び固定資産未実現損益	477 "
投資有価証券評価損	564 "	投資有価証券評価損	659 "
ゴルフ会員権評価損	570 "	ゴルフ会員権評価損	561 "
減損損失	1,066 "	減損損失	1,066 "
その他	1,441 "	その他	1,469 "
繰延税金資産小計	11,512 "	繰延税金資産小計	11,412 "
評価性引当額	△2,800 "	評価性引当額	△2,884 "
繰延税金資産合計	8,712 "	繰延税金資産合計	8,528 "
繰延税金負債		繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	3,519 "	その他有価証券評価差額金	3,177 "
固定資産圧縮積立金	2,291 "	固定資産圧縮積立金	2,261 "
その他	15 "	その他	0 "
繰延税金負債合計	5,826 "	繰延税金負債合計	5,440 "
繰延税金資産(負債)の純額	2,886 "	繰延税金資産(負債)の純額	3,087 "
繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。		繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。	
流動資産－繰延税金資産	2,479百万円	流動資産－繰延税金資産	2,075百万円
固定資産－繰延税金資産	573 "	固定資産－繰延税金資産	1,101 "
流動負債－繰延税金負債	0 "	流動負債－繰延税金負債	0 "
固定負債－繰延税金負債	166 "	固定負債－繰延税金負債	90 "

(2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前連結会計年度 (平成22年3月31日)		当連結会計年度 (平成23年3月31日)	
法定実効税率 (調整)	40.0%	法定実効税率 (調整)	40.0%
税額控除	△4.8 "	税額控除	△3.2 "
海外子会社税率差異	△3.9 "	海外子会社税率差異	△6.3 "
交際費等損金不算入額	1.6 "	交際費等損金不算入額	1.2 "
のれん償却額	1.9 "	のれん償却額	1.4 "
その他	△1.2 "	その他	△1.8 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	33.6 "	税効果会計適用後の法人税等の負担率	31.2 "

(企業結合等関係)

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当連結会計年度末(平成23年3月31日)

当社グループの資産除去債務の総額に重要性が乏しいため、開示を省略いたします。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

当社グループの賃貸不動産の総額に重要性が乏しいため、開示を省略いたします。

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

当社グループの賃貸不動産の総額に重要性が乏しいため、開示を省略いたします。

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

	有機系 素材事業 (百万円)	無機系 素材事業 (百万円)	電子材料 事業 (百万円)	機能・ 加工製品 事業 (百万円)	その他 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連 結 (百万円)
I. 売上高および 営業損益								
(1) 外部顧客に対す る売上高	131,554	48,992	38,959	71,540	32,828	323,875	—	323,875
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	320	31	0	234	8,051	8,637	(8,637)	—
計	131,875	49,023	38,959	71,774	40,880	332,513	(8,637)	323,875
営業費用	130,194	46,758	32,597	60,920	40,240	310,712	(8,491)	302,220
営業利益	1,680	2,265	6,361	10,854	639	21,801	(146)	21,655
II. 資産、減価償却費 および資本的支出								
資産	111,531	59,742	54,654	81,218	20,384	327,530	72,876	400,407
減価償却費	6,351	4,760	4,475	5,352	30	20,970	(39)	20,931
資本的支出	7,168	6,009	4,441	9,457	50	27,127	(199)	26,928

(注) 1. 事業区分の方法

事業区分は、製品の種類・性質の類似性を考慮して区分しております。

2. 各事業区分の主要製品

事業区分	主要製品
有機系素材事業	スチレンモノマー、ポリスチレン樹脂、ABS樹脂、クリアレン、耐熱・透明樹脂、 酢酸、酢ビ、ポパール、クロロプレングム、アセチレンブラック ほか
無機系素材事業	肥料、カーバイド、耐火物、セメント、特殊混和材 ほか
電子材料事業	熔融シリカ、電子回路基板、ファインセラミックス、電子包装材料 ほか
機能・加工製品事業	食品包装材料、ワクチン、関節機能改善剤、診断薬、住設・環境資材、産業資材 ほか
その他事業	プラントエンジニアリング ほか

3. 前連結会計年度における営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用はありません。

4. 前連結会計年度における資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は72,876百万円であり、その主なものは、親会社での金融資産(現金及び預金、投資有価証券)および管理部門に係る資産であります。

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)において、全セグメントの売上高の合計額に占める本邦の割合が90%超であるため、記載を省略しております。

【海外売上高】

前連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

	アジア	その他	計
I 海外売上高（百万円）	60,670	17,889	78,560
II 連結売上高（百万円）	—	—	323,875
III 海外売上高の連結売上高に占める割合（%）	18.7	5.5	24.3

（注）1. 国または地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 各区分に属する国または地域の内訳は次のとおりであります。

アジア……中国、韓国、マレーシア、インドネシア、タイ、台湾、インド、中近東他

3. 海外売上高は、当社および連結子会社の本邦以外の国または地域における売上高であります。

【セグメント情報】

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループでは、製品の種類・性質を基にした事業部をおき、国内および海外の事業戦略等を立案し事業展開を行っており、経済的特徴や製品の性質・サービスの内容等が概ね類似しているものを集約した「有機系素材事業」、「無機系素材事業」、「電子材料事業」および「機能・加工製品事業」を報告セグメントとしております。

なお、各報告セグメントの主要製品は、次のとおりであります。

報告セグメント	主要製品
有機系素材事業	スチレンモノマー、ポリスチレン樹脂、ABS樹脂、クリアレン、耐熱・透明樹脂、酢酸、酢ビ、ポパール、クロロプレングム、アセチレンブラック ほか
無機系素材事業	肥料、カーバイド、耐火物、セメント、特殊混和材 ほか
電子材料事業	熔融シリカ、電子回路基板、ファインセラミックス、電子包装材料 ほか
機能・加工製品事業	食品包装材料、ワクチン、関節機能改善剤、診断薬、住設・環境資材、産業資材 ほか

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 事業 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	有機系 素材事業	無機系 素材事業	電子材料 事業	機能・ 加工製品 事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	131,554	48,992	38,959	71,540	291,047	32,828	323,875	—	323,875
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	320	31	0	234	585	8,051	8,637	(8,637)	—
計	131,875	49,023	38,959	71,774	291,633	40,880	332,513	(8,637)	323,875
セグメント利益	1,680	2,265	6,361	10,854	21,161	639	21,801	△146	21,655
セグメント資産	121,227	61,982	60,061	86,128	329,401	20,384	349,785	50,621	400,407
その他の項目									
減価償却費	6,351	4,760	4,475	5,352	20,940	30	20,970	(39)	20,931
のれんの償却 額	—	—	—	815	815	—	815	—	815
有形固定資産 及び無形固定 資産の増加額	7,168	6,009	4,441	9,457	27,076	50	27,127	(199)	26,928

当連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 事業 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	有機系 素材事業	無機系 素材事業	電子材料 事業	機能・ 加工製品 事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	156,398	48,571	46,914	72,985	324,869	33,023	357,893	—	357,893
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	20	41	2	190	255	5,901	6,156	(6,156)	—
計	156,419	48,612	46,916	73,176	325,124	38,924	364,049	(6,156)	357,893
セグメント利益	4,970	3,025	8,471	7,188	23,656	886	24,542	75	24,618
セグメント資産	124,162	59,531	63,784	85,089	332,567	24,561	357,129	44,916	402,046
その他の項目									
減価償却費	7,073	4,986	4,622	5,641	22,323	40	22,364	(71)	22,292
のれんの償却 額	—	—	—	815	815	—	815	—	815
有形固定資産 及び無形固定 資産の増加額	4,386	3,719	7,318	5,952	21,377	37	21,415	(89)	21,325

(注) 1. 「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プラントエンジニアリング事業、商社事業等を含んでおります。

2. 調整額の内容は以下のとおりです。

セグメント利益

前連結会計年度および当連結会計年度の調整額は、主としてセグメント間取引消去によるものです。

セグメント資産

	前連結会計年度	当連結会計年度
セグメント間取引消去	△27,011	△31,378
全社資産※	77,632	76,295
合計	50,621	44,916

※全社資産の主なものは親会社の金融資産（現金及び預金、投資有価証券）および管理部門に係わる資産の額であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

	日本	海外			合計
		アジア	その他	計	
売上高	245,315	60,670	17,889	78,560	323,875
連結売上高に占める割合(%)	75.7	18.7	5.5	24.3	100.0

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

連結損益計算書の売上高の10%を超える特定の外部顧客がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

	日本	海外			合計
		アジア	その他	計	
売上高	259,709	76,719	21,463	98,183	357,893
連結売上高に占める割合(%)	72.6	21.4	6.0	27.4	100.0

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

連結損益計算書の売上高の10%を超える特定の外部顧客がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他業 事	合計	調整額	連結 財務諸表 計上額
	有機系 素材事業	無機系 素材事業	電子材料 事業	機能・ 加工製品 事業	計				
当期償却額	—	—	—	815	815	—	815	—	815
当期末残高	—	—	—	2,445	2,445	—	2,445	—	2,445

負ののれんの償却額は報告セグメントに配分しておりません。なお、当連結会計年度における負ののれんの償却額は49百万円、当連結会計年度末の未償却残高は158百万円であります。

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他業 事	合計	調整額	連結 財務諸表 計上額
	有機系 素材事業	無機系 素材事業	電子材料 事業	機能・ 加工製品 事業	計				
当期償却額	—	—	—	815	815	—	815	—	815
当期末残高	—	—	—	1,630	1,630	—	1,630	—	1,630

負ののれんの償却額は報告セグメントに配分しておりません。なお、当連結会計年度における負ののれんの償却額は47百万円、当連結会計年度末の未償却残高は109百万円であります。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

（追加情報）

当連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

当連結会計年度より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

(1) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称	住所	資本金 または 出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の 所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
						役員の 兼任等	事業上の 関係				
関連会社	東洋スチレン(株)	東京都港区	5,000	ポリスチレン樹脂の製造・加工・販売	(所有) 直接50%	兼任1名 出向4名	当社の製品を原料として供給し、完成品の一部を購入している。	当社製品の販売	13,814	売掛金	5,612
								原材料の仕入	6,315	買掛金	2,281

(2) 連結財務諸表提出会社の役員および主要株主等

種類	会社等の名称または氏名	所在地	資本金 または 出資金 (百万円)	事業の内容 または職業	議決権等の 所有(被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員およびその近親者が議決権の過半数を自己の計算において所有している会社等	(株)A Oサポート	新潟県糸魚川市	10	工場内製造等の補助作業請負	(所有) 直接10%	当社の製品および原料の製造等の補助作業	当社の製品および原料の製造補助作業等の請負	89	未払費用	8
役員およびその近親者が議決権の過半数を自己の計算において所有している会社等	小野萬蔵商店	新潟県糸魚川市	—	環境関連部材・部品および資材販売、建設関連資材販売	(所有) なし	当社無機製品等の販売および資材・機材等の販売	当社製品の販売 資材の仕入 機材等の仕入	160 179 400 507	売掛金 買掛金 前渡金 未払金	47 46 — 464

- (注) 1. 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
2. 上記各社への請負代および当社製品等の販売および上記各社からの資材・機材等の仕入については、一般の取引条件と同様に決定しております。
3. (株)A Oサポートについては、当社役員である伊藤東の近親者が議決権の過半数を所有しております。
4. 小野萬蔵商店については、当社役員である伊藤東の近親者が代表者となっております。

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

(1) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称	住所	資本金または出資金(百万円)	事業の内容	議決権等の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
関連会社	東洋スチレン(株)	東京都港区	5,000	ポリスチレン樹脂の製造・加工・販売	(所有) 直接50%	兼任1名 出向4名	当社の製品を原料として供給し、完成品の一部を購入している。	当社製品の販売	14,083	売掛金	5,134
								原材料の仕入	6,844	買掛金	2,351
										預り金	4,000

(2) 連結財務諸表提出会社の役員および主要株主等

種類	会社等の名称または氏名	所在地	資本金または出資金(百万円)	事業の内容または職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
役員およびその近親者が議決権の過半数を自己の計算において所有している会社等	(株)A Oサポート	新潟県糸魚川市	10	工場内製造等の補助作業請負	(所有) 直接10%	当社の製品および原料の製造等の補助作業	当社の製品および原料の製造補助作業等の請負	23	未払費用	8
役員およびその近親者が議決権の過半数を自己の計算において所有している会社等	小野萬蔵商店	新潟県糸魚川市	—	環境関連部材・部品および資材販売、建設関連資材販売	(所有) なし	当社無機製品等の販売および資材・機材等の販売	当社製品の販売 資材の仕入 機材等の仕入	31 50 609	売掛金 買掛金 未払金	49 51 704

- (注) 1. 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
2. 上記各社への請負代および当社製品等の販売および上記各社からの資材・機材等の仕入については、一般の取引条件と同様に決定しております。
3. (株)A Oサポートは、平成22年6月22日の第151回定時株主総会にて当社役員を退任した伊藤東の近親者が代表者となっております。取引額は平成22年4月から平成22年6月までの取引額を記載しており、期末残高は平成22年6月末現在の残高を記載しております。
4. 小野萬蔵商店は、平成22年6月22日の第151回定時株主総会にて当社役員を退任した伊藤東の近親者が代表者となっております。取引額は平成22年4月から平成22年6月までの取引額を記載しており、期末残高は平成22年6月末現在の残高を記載しております。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	
1株当たり純資産額	321円46銭	1株当たり純資産額	337円35銭
1株当たり当期純利益	21円33銭	1株当たり当期純利益	29円24銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。	

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
1株当たり当期純利益		
当期純利益(百万円)	10,474	14,355
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(百万円)	10,474	14,355
期中平均株式数(株)	491,031,471	490,920,767

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日 (平成年月日)	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限 (平成年月日)
電気化学工業株式会社	第14回普通社債	19. 6. 8	10,000	10,000	1.560	なし	24. 6. 8
電気化学工業株式会社	第15回普通社債	20. 6. 11	10,000	10,000	1.630	なし	25. 6. 11
電気化学工業株式会社	第16回普通社債	21. 12. 15	5,000	5,000	0.900	なし	26. 12. 15
合計		—	25,000	25,000	—	—	—

(注) 連結決算日後5年間の償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
—	10,000	10,000	5,000	—

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	38,327	35,730	0.7	—
コマーシャル・ペーパー	9,000	16,000	0.2	—
1年以内に返済予定の長期借入金	10,382	8,901	1.4	—
1年以内に返済予定のリース債務	33	53	—	—
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く。)	37,866	28,929	1.6	平成24年～29年
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く。)	101	150	—	平成24年～28年
合計	95,712	89,766	—	—

(注) 1. 長期借入金およびリース債務 (1年以内に返済予定のものを除く。) の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	9,211	6,543	512	12,512
リース債務	58	47	28	15

2. 平均利率は期末の利率および残高により算定しております。

3. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当該連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報

	第1四半期 自平成22年4月1日 至平成22年6月30日	第2四半期 自平成22年7月1日 至平成22年9月30日	第3四半期 自平成22年10月1日 至平成22年12月31日	第4四半期 自平成23年1月1日 至平成23年3月31日
売上高（百万円）	83,589	93,135	90,879	90,288
税金等調整前四半期純利益 金額（百万円）	5,800	5,258	4,922	5,047
四半期純利益又は四半期純 損失金額（百万円）	4,024	3,702	3,124	3,504
1株当たり四半期純利益又 は四半期純損失金額（円）	8.20	7.54	6.36	7.14

2 【財務諸表等】
 (1) 【財務諸表】
 ① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,592	1,372
受取手形	※3 1,519	※3 1,435
売掛金	※3 51,623	※3 55,176
商品及び製品	22,806	24,524
原材料	4,587	6,100
貯蔵品	3,421	2,966
前払費用	440	733
繰延税金資産	1,265	1,287
未収入金	※3 10,799	※3 10,365
短期貸付金	1	6
関係会社短期貸付金	985	786
その他	102	83
貸倒引当金	△604	△307
流動資産合計	99,541	104,531
固定資産		
有形固定資産		
建物	57,267	60,919
減価償却累計額	△32,210	△33,424
建物（純額）	※1 25,057	※1 27,495
構築物	48,225	48,571
減価償却累計額	△31,923	△32,581
構築物（純額）	※1 16,302	※1 15,989
機械及び装置	260,351	267,928
減価償却累計額	△196,605	△199,706
機械及び装置（純額）	※1 63,745	※1 68,221
車両運搬具	2,578	2,597
減価償却累計額	△2,345	△2,405
車両運搬具（純額）	※1 233	※1 192
工具、器具及び備品	11,527	11,997
減価償却累計額	△9,771	△10,080
工具、器具及び備品（純額）	※1 1,756	※1 1,917
土地	※1, ※4 60,894	※1, ※4 60,924
建設仮勘定	12,316	3,572
有形固定資産合計	180,306	178,314
無形固定資産		
借地権	23	23
特許権	16	392
ソフトウェア	517	223
その他	123	116
無形固定資産合計	680	756

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	23,141	20,942
関係会社株式	29,247	29,317
出資金	3	3
長期貸付金	1	1
株主、役員又は従業員に対する長期貸付金	1	—
関係会社長期貸付金	300	443
長期前払費用	1,104	2,490
繰延税金資産	—	164
その他	※6 9,082	※6 8,812
貸倒引当金	△222	△21
投資その他の資産合計	62,658	62,152
固定資産合計	243,645	241,223
資産合計	343,186	345,754
負債の部		
流動負債		
買掛金	※3 31,839	※3 35,588
短期借入金	27,675	27,675
コマーシャル・ペーパー	9,000	16,000
1年内返済予定の長期借入金	9,048	7,950
未払金	16,502	12,205
未払法人税等	3,314	2,996
未払消費税等	57	690
未払費用	8,896	10,127
前受金	0	15
預り金	※3 14,565	※3 14,865
賞与引当金	1,221	1,213
その他	27	27
流動負債合計	122,148	129,355
固定負債		
社債	25,000	25,000
長期借入金	34,665	26,715
繰延税金負債	282	—
再評価に係る繰延税金負債	10,985	10,984
退職給付引当金	5,712	5,710
競争法関連費用引当金	※6 7,390	※6 7,390
資産除去債務	—	118
その他	345	213
固定負債合計	84,380	76,132
負債合計	206,528	205,488

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	36,998	36,998
資本剰余金		
資本準備金	49,284	49,284
その他資本剰余金	19	19
資本剰余金合計	49,303	49,304
利益剰余金		
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	3,435	3,419
繰越利益剰余金	37,912	42,146
利益剰余金合計	41,348	45,565
自己株式	△3,591	△3,642
株主資本合計	124,058	128,225
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	5,002	4,446
土地再評価差額金	※4 7,597	※4 7,594
評価・換算差額等合計	12,599	12,040
純資産合計	136,658	140,266
負債純資産合計	343,186	345,754

②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
売上高		
製品売上高	※3 196,182	※3 223,028
商品売上高	※3 17,331	※3 17,385
売上高合計	213,513	240,413
売上原価		
製品期首たな卸高	26,295	22,806
当期製品製造原価	※2, ※3 153,010	※2, ※3 178,254
当期商品仕入高	※3 13,078	※3 14,997
合計	192,384	216,058
製品他勘定振替高	※1 3,407	※1 4,046
製品期末たな卸高	22,806	24,524
売上原価合計	166,170	187,487
売上総利益	47,343	52,926
販売費及び一般管理費		
運送費及び保管費	11,236	11,572
販売手数料	4,277	4,558
給料及び手当	5,739	5,744
賞与引当金繰入額	648	587
退職給付引当金繰入額	417	404
貸倒引当金繰入額	0	0
減価償却費	2,104	1,878
事業税	282	325
事業所税	29	27
技術研究費	3,849	4,268
その他の販売費	1,151	1,081
その他	5,911	6,337
販売費及び一般管理費合計	※2, ※3 35,647	※2, ※3 36,785
営業利益	11,695	16,140
営業外収益		
受取利息	61	34
受取配当金	1,930	1,959
固定資産賃貸料	314	344
業務受託料	403	388
技術指導料	197	394
その他	205	248
営業外収益合計	※3 3,114	※3 3,371

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
営業外費用		
支払利息	1,011	910
社債利息	391	364
商業・ペーパー利息	26	16
為替差損	149	632
固定資産処分損	943	673
退職給付会計基準変更時差異の処理額	1,069	—
操業休止等経費	581	—
その他	1,306	1,176
営業外費用合計	5,481	3,773
経常利益	9,328	15,737
特別損失		
投資有価証券評価損	395	819
事業整理損	652	914
災害による損失	—	138
特別損失合計	1,047	1,872
税引前当期純利益	8,280	13,865
法人税、住民税及び事業税	3,611	4,836
法人税等調整額	△971	△97
法人税等合計	2,640	4,739
当期純利益	5,640	9,125

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
I 原材料費		108,060	70.6	128,724	72.2
II 労務費	※1	14,612	9.6	15,555	8.7
III 経費					
減価償却費		13,931		16,021	
支払修繕費		6,329		7,906	
その他		13,597		14,633	
経費計		33,858	22.1	38,561	21.6
IV 他勘定振替高	※2	△3,520	△2.3	△4,586	△2.5
V 当期総製造費用	※3	153,010	100.0	178,254	100.0
VI 仕掛品期首たな卸高		—		—	
合計		153,010		178,254	
VII 仕掛品期末たな卸高		—		—	
VIII 当期製品製造原価		153,010		178,254	

(注) ※1. このうち、賞与引当金繰入額は、前事業年度882百万円、当事業年度922百万円、退職給付引当金繰入額は、前事業年度1,106百万円、当事業年度1,076百万円であります。

※2. 他勘定振替高のうち、主なものは、社外への用役給付高、販売費及び一般管理費への振替高であります。

※3. このうち、研究費は、前事業年度2,193百万円、当事業年度2,256百万円であります。

4. 各原価計算の方法は、工程別総合原価計算であります。原価部門は製造部門、補助部門を設け、各原価要素を要素別把握と同時に各原価部門別に集計し、補助部門費はその用役の給付量を基準として配賦します(階梯式配賦法)。各製造部門費は、工程の流れに従って逐次受渡しがおこなわれ、荷造費が賦課されて出荷原価が確定します。

③【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	36,998	36,998
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	36,998	36,998
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	49,284	49,284
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	49,284	49,284
その他資本剰余金		
前期末残高	18	19
当期変動額		
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	19	19
資本剰余金合計		
前期末残高	49,303	49,303
当期変動額		
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	49,303	49,304
利益剰余金		
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金		
前期末残高	3,440	3,435
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の取崩	△4	△16
当期変動額合計	△4	△16
当期末残高	3,435	3,419
繰越利益剰余金		
前期末残高	34,709	37,912
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の取崩	4	16
剰余金の配当	△2,455	△4,910
当期純利益	5,640	9,125
土地再評価差額金の取崩	13	2
当期変動額合計	3,202	4,233
当期末残高	37,912	42,146

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
利益剰余金合計		
前期末残高	38,149	41,348
当期変動額		
剰余金の配当	△2,455	△4,910
当期純利益	5,640	9,125
土地再評価差額金の取崩	13	2
当期変動額合計	3,198	4,217
当期末残高	41,348	45,565
自己株式		
前期末残高	△3,571	△3,591
当期変動額		
自己株式の取得	△21	△52
自己株式の処分	1	1
当期変動額合計	△20	△51
当期末残高	△3,591	△3,642
株主資本合計		
前期末残高	120,880	124,058
当期変動額		
剰余金の配当	△2,455	△4,910
当期純利益	5,640	9,125
自己株式の取得	△21	△52
自己株式の処分	1	2
土地再評価差額金の取崩	13	2
当期変動額合計	3,177	4,166
当期末残高	124,058	128,225

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	2,308	5,002
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	2,694	△556
当期変動額合計	2,694	△556
当期末残高	5,002	4,446
土地再評価差額金		
前期末残高	7,610	7,597
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	△13	△2
当期変動額合計	△13	△2
当期末残高	7,597	7,594
評価・換算差額等合計		
前期末残高	9,918	12,599
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	2,680	△558
当期変動額合計	2,680	△558
当期末残高	12,599	12,040
純資産合計		
前期末残高	130,799	136,658
当期変動額		
剰余金の配当	△2,455	△4,910
当期純利益	5,640	9,125
自己株式の取得	△21	△52
自己株式の処分	1	2
土地再評価差額金の取崩	13	2
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	2,680	△558
当期変動額合計	5,858	3,608
当期末残高	136,658	140,266

【重要な会計方針】

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
1. 有価証券の評価基準および評価方法	子会社株式および関連会社株式 移動平均法による原価法 その他有価証券 時価のあるもの 期末日前1ヶ月間の市場価格の平均に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定） 時価のないもの 移動平均法による原価法	子会社株式および関連会社株式 同左 その他有価証券 時価のあるもの 同左 時価のないもの 同左
2. たな卸資産の評価基準および評価方法	商品及び製品・原材料・貯蔵品 総平均法による原価法 （貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）	商品及び製品・原材料・貯蔵品 同左
3. 固定資産の減価償却の方法	有形固定資産（リース資産を除く） 定額法 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物 8～50年 機械及び装置 7～20年 無形固定資産（リース資産を除く） 主として定額法 （自社利用ソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。） リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。 長期前払費用 均等償却しております。	有形固定資産（リース資産を除く） 同左 無形固定資産（リース資産を除く） 同左 リース資産 同左 長期前払費用 同左
4. 引当金の計上基準	(1) 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については、貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し回収不能見込額を計上しております。	(1) 貸倒引当金 同左

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>(2) 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職金支給に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき計上しております。なお、会計基準変更時差異(11,490百万円)については、10年による按分額を費用処理しております。</p> <p>過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理しております。</p> <p>数理計算上の差異は、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理することとしております。</p> <p>(会計方針の変更) 当事業年度より、「「退職給付に係る会計基準」の一部改正(その3)」(企業会計基準第19号 平成20年7月31日)を適用しております。なお、これによる損益に与える影響はありません。</p> <p>(4) 競争法関連費用引当金 EU競争法関連費用として、今後発生する可能性のある損失見積額を引当金として計上しております。</p> <p>(1) 消費税等の会計処理方法 税抜方式によっております。</p>	<p>(2) 賞与引当金 同左</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職金支給に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき計上しております。</p> <p>過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理しております。</p> <p>数理計算上の差異は、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理することとしております。</p> <p>—————</p> <p>(4) 競争法関連費用引当金 同左</p> <p>(1) 消費税等の会計処理方法 同左</p>

【会計処理方法の変更】

<p>前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)</p>
<p>—————</p>	<p>(「資産除去債務に関する会計基準」の適用) 当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。 なお、これによる当事業年度の営業利益、経常利益および税引前当期純利益に与える影響は軽微であります。 (「企業結合に関する会計基準等」の適用) 当事業年度より、「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)、「研究開発費等に係る会計基準」の一部改正(企業会計基準第23号 平成20年12月26日)、「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)を適用しております。</p>

【表示方法の変更】

<p>前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)</p>
<p>—————</p>	<p>(損益計算書) 前期において、区分掲記しておりました「操業休止等経費」(当事業年度は321百万円)は、営業外費用総額の100分の10以下となったため、営業外費用の「その他」に含めて表示することとしました。</p>

【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度（平成22年3月31日）	当事業年度（平成23年3月31日）																																																																																														
<p>※1 このうち担保に供しているのは次のとおりであります。</p> <p>ただし、平成22年3月31日現在の担保提供資産に対応する債務はありません。</p> <p>(イ) 担保提供資産簿価 建物・構築物・土地・その他 有形固定資産（工場財団） 113,677百万円</p> <p>2 偶発債務 保証債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">(相手先)</th> <th style="text-align: left;">(保証内容)</th> <th style="text-align: right;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>デンカケミカルズホールディングス</td> <td>銀行保証等</td> <td style="text-align: right;">5,084百万円</td> </tr> <tr> <td>ジアバシフィックP.L.</td> <td></td> <td style="text-align: right;">(5,380万米ドル他)</td> </tr> <tr> <td>デンカポリマー(株)</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td style="text-align: right;">1,100百万円</td> </tr> <tr> <td>デンカシンガポールP.L.</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td style="text-align: right;">553 "</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">(594万米ドル)</td> </tr> <tr> <td>デンカアズミン(株)</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td style="text-align: right;">437百万円</td> </tr> <tr> <td>デンカAGSP(株)</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td style="text-align: right;">400 "</td> </tr> <tr> <td>電化精細材料(蘇州)有限公司</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td style="text-align: right;">291 "</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">(240万米ドル他)</td> </tr> <tr> <td>デンカコンクリート(株)</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td style="text-align: right;">130百万円</td> </tr> <tr> <td>大間々デンカ生コン(株)</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td style="text-align: right;">100 "</td> </tr> <tr> <td>その他3社</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td style="text-align: right;">236 "</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td></td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">8,334 "</td> </tr> </tbody> </table> <p>※3 関係会社に係る注記</p> <p>区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対するものは次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td>受取手形及び売掛金</td> <td style="text-align: right;">22,089百万円</td> </tr> <tr> <td>未収入金</td> <td style="text-align: right;">3,855 "</td> </tr> <tr> <td>買掛金</td> <td style="text-align: right;">6,051 "</td> </tr> <tr> <td>預り金</td> <td style="text-align: right;">6,558 "</td> </tr> </tbody> </table> <p>※4 事業用土地の再評価</p> <p>当社は、土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）に基づき、事業用の土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再評価の方法 <p>土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第3号に定める固定資産税評価額および第2条第4号に定める路線価に基づきこれに合理的な調整をおこなって算出</p> ・再評価をおこなった年月日 平成14年3月31日 	(相手先)	(保証内容)		デンカケミカルズホールディングス	銀行保証等	5,084百万円	ジアバシフィックP.L.		(5,380万米ドル他)	デンカポリマー(株)	"	1,100百万円	デンカシンガポールP.L.	"	553 "			(594万米ドル)	デンカアズミン(株)	"	437百万円	デンカAGSP(株)	"	400 "	電化精細材料(蘇州)有限公司	"	291 "			(240万米ドル他)	デンカコンクリート(株)	"	130百万円	大間々デンカ生コン(株)	"	100 "	その他3社	"	236 "	計		8,334 "	受取手形及び売掛金	22,089百万円	未収入金	3,855 "	買掛金	6,051 "	預り金	6,558 "	<p>※1 このうち担保に供しているのは次のとおりであります。</p> <p>ただし、平成23年3月31日現在の担保提供資産に対応する債務はありません。</p> <p>(イ) 担保提供資産簿価 建物・構築物・土地・その他 有形固定資産（工場財団） 120,257百万円</p> <p>2 偶発債務 保証債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">(相手先)</th> <th style="text-align: left;">(保証内容)</th> <th style="text-align: right;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>デンカケミカルズホールディングス</td> <td>銀行保証等</td> <td style="text-align: right;">2,427百万円</td> </tr> <tr> <td>ジアバシフィックP.L.</td> <td></td> <td style="text-align: right;">(2,800万米ドル他)</td> </tr> <tr> <td>デンカシンガポールP.L.</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td style="text-align: right;">2,360百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">(2,838万米ドル)</td> </tr> <tr> <td>デンカポリマー(株)</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td style="text-align: right;">600百万円</td> </tr> <tr> <td>デンカアズミン(株)</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td style="text-align: right;">380 "</td> </tr> <tr> <td>電化精細材料(蘇州)有限公司</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td style="text-align: right;">169 "</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">(195万米ドル他)</td> </tr> <tr> <td>デンカコンクリート(株)</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td style="text-align: right;">121百万円</td> </tr> <tr> <td>その他4社</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td style="text-align: right;">293 "</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td></td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">6,352 "</td> </tr> </tbody> </table> <p>※3 関係会社に係る注記</p> <p>区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対するものは次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td>受取手形及び売掛金</td> <td style="text-align: right;">23,525百万円</td> </tr> <tr> <td>未収入金</td> <td style="text-align: right;">3,081 "</td> </tr> <tr> <td>買掛金</td> <td style="text-align: right;">6,338 "</td> </tr> <tr> <td>預り金</td> <td style="text-align: right;">9,892 "</td> </tr> </tbody> </table> <p>※4 事業用土地の再評価</p> <p style="text-align: right;">同左</p>	(相手先)	(保証内容)		デンカケミカルズホールディングス	銀行保証等	2,427百万円	ジアバシフィックP.L.		(2,800万米ドル他)	デンカシンガポールP.L.	"	2,360百万円			(2,838万米ドル)	デンカポリマー(株)	"	600百万円	デンカアズミン(株)	"	380 "	電化精細材料(蘇州)有限公司	"	169 "			(195万米ドル他)	デンカコンクリート(株)	"	121百万円	その他4社	"	293 "	計		6,352 "	受取手形及び売掛金	23,525百万円	未収入金	3,081 "	買掛金	6,338 "	預り金	9,892 "
(相手先)	(保証内容)																																																																																														
デンカケミカルズホールディングス	銀行保証等	5,084百万円																																																																																													
ジアバシフィックP.L.		(5,380万米ドル他)																																																																																													
デンカポリマー(株)	"	1,100百万円																																																																																													
デンカシンガポールP.L.	"	553 "																																																																																													
		(594万米ドル)																																																																																													
デンカアズミン(株)	"	437百万円																																																																																													
デンカAGSP(株)	"	400 "																																																																																													
電化精細材料(蘇州)有限公司	"	291 "																																																																																													
		(240万米ドル他)																																																																																													
デンカコンクリート(株)	"	130百万円																																																																																													
大間々デンカ生コン(株)	"	100 "																																																																																													
その他3社	"	236 "																																																																																													
計		8,334 "																																																																																													
受取手形及び売掛金	22,089百万円																																																																																														
未収入金	3,855 "																																																																																														
買掛金	6,051 "																																																																																														
預り金	6,558 "																																																																																														
(相手先)	(保証内容)																																																																																														
デンカケミカルズホールディングス	銀行保証等	2,427百万円																																																																																													
ジアバシフィックP.L.		(2,800万米ドル他)																																																																																													
デンカシンガポールP.L.	"	2,360百万円																																																																																													
		(2,838万米ドル)																																																																																													
デンカポリマー(株)	"	600百万円																																																																																													
デンカアズミン(株)	"	380 "																																																																																													
電化精細材料(蘇州)有限公司	"	169 "																																																																																													
		(195万米ドル他)																																																																																													
デンカコンクリート(株)	"	121百万円																																																																																													
その他4社	"	293 "																																																																																													
計		6,352 "																																																																																													
受取手形及び売掛金	23,525百万円																																																																																														
未収入金	3,081 "																																																																																														
買掛金	6,338 "																																																																																														
預り金	9,892 "																																																																																														

前事業年度（平成22年3月31日）	当事業年度（平成23年3月31日）												
<p>5 当社は、運転資金の効率的な調達をおこなうため、取引銀行4行と貸出コミットメント契約を締結しております。この契約に基づく当事業年度の末日の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 60%;">貸出コミットメントの総額</td> <td style="text-align: right;">20,000百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">－ 〃</td> </tr> <tr> <td>差引額</td> <td style="text-align: right;">20,000 〃</td> </tr> </table>	貸出コミットメントの総額	20,000百万円	借入実行残高	－ 〃	差引額	20,000 〃	<p>5 当社は、運転資金の効率的な調達をおこなうため、取引銀行4行と貸出コミットメント契約を締結しております。この契約に基づく当事業年度の末日の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 60%;">貸出コミットメントの総額</td> <td style="text-align: right;">20,000百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">－ 〃</td> </tr> <tr> <td>差引額</td> <td style="text-align: right;">20,000 〃</td> </tr> </table>	貸出コミットメントの総額	20,000百万円	借入実行残高	－ 〃	差引額	20,000 〃
貸出コミットメントの総額	20,000百万円												
借入実行残高	－ 〃												
差引額	20,000 〃												
貸出コミットメントの総額	20,000百万円												
借入実行残高	－ 〃												
差引額	20,000 〃												
<p>※6 競争法関連費用引当金</p> <p>当社および当社子会社デンカケミカルズ社（本社：ドイツ デュッセルドルフ）は、平成19年12月5日（日本時間）に、欧州における1993（平成5）年から2002（平成14）年までのクロロプレンゴムの販売に関して競争制限行為があったとして、欧州委員会より4,700万ユーロの課徴金賦課の決定通知を受領いたしました。</p> <p>平成20年3月5日（日本時間）に通知額と同額を欧州委員会に支払い、投資その他の資産の「その他」に計上しておりますが、当社およびデンカケミカルズ社は競争制限行為をおこなった意図はなく、かつ事実認識も異なるため、平成20年2月19日（日本時間）に欧州第一審裁判所に提訴いたしました。</p> <p>なお、本件は現在係争中であり結審しておりませんが、今後発生する可能性のある損失に備え、当該決定通知額の全額（支払日の為替レートで7,390百万円）を引当計上しております。</p>	<p>※6 競争法関連費用引当金</p> <p style="text-align: center;">同左</p>												

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	
※1	他勘定振替高内訳 他工場渡し 2,951百万円 見本・目増および目欠 80 〃 製品・試作品受入 △104 〃 試験費振替他 480 〃 計 3,407 〃	※1	他勘定振替高内訳 他工場渡し 3,049百万円 見本・目増および目欠 83 〃 製品・試作品受入 △60 〃 試験費振替他 973 〃 計 4,046 〃
※2	一般管理費および当期製造費用に含まれる研究開発費 6,989百万円	※2	一般管理費および当期製造費用に含まれる研究開発費 7,538百万円
※3	関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。 製品売上高および商品売上高 65,291百万円 営業費用 44,349 〃 受取配当金 1,440 〃 固定資産賃貸料 234 〃 業務受託料 230 〃 その他の営業外収益 423 〃	※3	関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。 製品売上高および商品売上高 75,335百万円 営業費用 46,894 〃 受取配当金 1,182 〃 固定資産賃貸料 269 〃 業務受託料 216 〃 技術指導料 393 〃 その他の営業外収益 206 〃

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

自己株式の種類および株式数に関する事項

	前事業年度末 株式数 (千株)	当事業年度増加 株式数 (千株)	当事業年度減少 株式数 (千株)	当事業年度末 株式数 (千株)
普通株式 (注)	14,679	65	5	14,738
合計	14,679	65	5	14,738

(注) 普通株式の自己株式の増加は単元未満株式の買い取りによるものです。普通株式の自己株式の減少は単元未満株式の売渡しによるものであります。

当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

自己株式の種類および株式数に関する事項

	前事業年度末 株式数 (千株)	当事業年度増加 株式数 (千株)	当事業年度減少 株式数 (千株)	当事業年度末 株式数 (千株)
普通株式 (注)	14,738	133	5	14,867
合計	14,738	133	5	14,867

(注) 普通株式の自己株式の増加は単元未満株式の買い取りによるものです。普通株式の自己株式の減少は単元未満株式の売渡しによるものであります。

(リース取引関係)

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)																																																
<p>1. 所有権移転外ファイナンス・リース取引</p> <p>①リース資産の内容 主として生産設備（機械及び装置）であります。</p> <p>②リース資産の減価償却の方法 重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。</p> <p>なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額および期末残高相当額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額 (百万円)</th> <th>減価償却累計額相当額 (百万円)</th> <th>期末残高相当額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械及び装置</td> <td>2,389</td> <td>1,593</td> <td>795</td> </tr> <tr> <td>工具器具及び備品</td> <td>61</td> <td>61</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2,450</td> <td>1,654</td> <td>796</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。</p> <p>(2) 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額</p> <table> <tr> <td>1年内</td> <td style="text-align: right;">626百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">170 〃</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">796 〃</td> </tr> </table> <p>(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。</p> <p>(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額および減損損失</p> <table> <tr> <td>支払リース料</td> <td style="text-align: right;">428百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">428 〃</td> </tr> </table> <p>(4) 減価償却費相当額の算定方法 主としてリース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p> <p>(減損損失について) リース資産に配分された減損損失はありません。</p>		取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)	機械及び装置	2,389	1,593	795	工具器具及び備品	61	61	0	合計	2,450	1,654	796	1年内	626百万円	1年超	170 〃	合計	796 〃	支払リース料	428百万円	減価償却費相当額	428 〃	<p>1. 所有権移転外ファイナンス・リース取引</p> <p>①リース資産の内容 生産設備（機械及び装置）であります。</p> <p>②リース資産の減価償却の方法 同左</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額および期末残高相当額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額 (百万円)</th> <th>減価償却累計額相当額 (百万円)</th> <th>期末残高相当額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械及び装置</td> <td>800</td> <td>629</td> <td>170</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>800</td> <td>629</td> <td>170</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。</p> <p>(2) 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額</p> <table> <tr> <td>1年内</td> <td style="text-align: right;">80百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">90 〃</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">170 〃</td> </tr> </table> <p>(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。</p> <p>(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額および減損損失</p> <table> <tr> <td>支払リース料</td> <td style="text-align: right;">327百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">327 〃</td> </tr> </table> <p>(4) 減価償却費相当額の算定方法 同左</p> <p>(減損損失について) 同左</p>		取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)	機械及び装置	800	629	170	合計	800	629	170	1年内	80百万円	1年超	90 〃	合計	170 〃	支払リース料	327百万円	減価償却費相当額	327 〃
	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)																																														
機械及び装置	2,389	1,593	795																																														
工具器具及び備品	61	61	0																																														
合計	2,450	1,654	796																																														
1年内	626百万円																																																
1年超	170 〃																																																
合計	796 〃																																																
支払リース料	428百万円																																																
減価償却費相当額	428 〃																																																
	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)																																														
機械及び装置	800	629	170																																														
合計	800	629	170																																														
1年内	80百万円																																																
1年超	90 〃																																																
合計	170 〃																																																
支払リース料	327百万円																																																
減価償却費相当額	327 〃																																																

(有価証券関係)

前事業年度 (平成22年 3月31日)

子会社株式および関連会社株式 (貸借対照表計上額 子会社株式24,433百万円、関連会社株式4,813百万円) は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度 (平成23年 3月31日)

子会社株式および関連会社株式 (貸借対照表計上額 子会社株式24,531百万円、関連会社株式4,785百万円) は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

前事業年度 (平成22年 3月31日)		当事業年度 (平成23年 3月31日)	
繰延税金資産		繰延税金資産	
未払事業税等	329百万円	未払事業税等	286百万円
貸倒引当金	259 "	貸倒引当金	89 "
競争法関連費用引当金	2,956 "	競争法関連費用引当金	2,956 "
長期未払金	138 "	長期未払金	85 "
退職給付引当金	2,285 "	退職給付引当金	2,284 "
賞与引当金	489 "	賞与引当金	486 "
ゴルフ会員権評価損	545 "	ゴルフ会員権評価損	529 "
投資有価証券評価損	490 "	投資有価証券評価損	592 "
減損損失	1,064 "	減損損失	1,064 "
その他	416 "	その他	843 "
繰延税金資産小計	8,971 "	繰延税金資産小計	9,214 "
評価性引当額	△2,357 "	評価性引当額	△2,528 "
繰延税金資産計	6,614 "	繰延税金資産計	6,686 "
繰延税金負債		繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	3,340 "	その他有価証券評価差額金	2,974 "
固定資産圧縮積立金	2,291 "	固定資産圧縮積立金	2,261 "
繰延税金負債計	5,631 "	繰延税金負債計	5,235 "
繰延税金資産の純額	983 "	繰延税金資産の純額	1,451 "

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前事業年度 (平成22年 3月31日)		当事業年度 (平成23年 3月31日)	
法定実効税率	40.0%	法定実効税率	40.0%
(調整)		(調整)	
評価性引当額等増減額	2.4 "	評価性引当額等増減額	0.2 "
交際費等損金不算入額	2.6 "	交際費等損金不算入額	1.5 "
受取配当金益金不算入額	△8.0 "	受取配当金益金不算入額	△4.2 "
税額控除	△6.8 "	税額控除	△4.0 "
その他	1.7 "	その他	0.7 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	31.9 "	税効果会計適用後の法人税等の負担率	34.2 "

(企業結合等関係)

前事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1. 共通支配下の取引等

(1) 結合当事企業および事業の内容、企業結合の法的形式ならびに取引の目的を含む概要

①結合当事企業および事業の内容

電気化学工業株式会社

化学品製造販売

デンカケミカルズホールディングスアジアパシフィックP.L.

地域統括持株会社

②企業結合の法的形式

当社が子会社株式をデンカケミカルズホールディングスアジアパシフィックP.L.へ現物出資

③取引の内容を含む取引の概要

当社では東南・南アジア地域での当社他製品を含めた更なる事業展開を図るため、当事業年度において、シンガポールにおける事業会社であるデンカシンガポールP.L.(DSP.L)およびデンカアドバンテックP.L.(DAP.L)を傘下とするデンカケミカルズホールディングスアジアパシフィックP.L.を設立しております。なお、この設立に当たって当社が保有するDSP.L株式とDAP.L株式を現物出資しておりますが、損益に与える影響はありません。

(2) 実施した会計処理の概要

「企業結合に係る会計基準」(企業会計審議会 平成15年10月31日)、「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準7号 平成17年12月27日公表分)および「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成19年11月15日公表分)に基づき、共通支配下の取引として、適正な帳簿価額において処理しております。

当事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当事業年度末(平成23年3月31日)

当事業年度末の資産除去債務の総額に重要性が乏しいため、開示を省略いたします。

(1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	
1株当たり純資産額	278円28銭	1株当たり純資産額	285円70銭
1株当たり当期純利益金額	11円49銭	1株当たり当期純利益金額	18円58銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。	

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
1株当たり当期純利益		
当期純利益(百万円)	5,640	9,125
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(百万円)	5,640	9,125
期中平均株式数(株)	491,108,121	491,032,738

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④【附属明細表】
【有価証券明細表】
〔株式〕

		銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他有価証券	三井物産(株)	3,296,125	4,759
		高压ガス工業(株)	6,906,198	3,273
		丸善石油化学(株)	2,400,000	1,554
		アイカ工業(株)	1,229,084	1,315
		三井生命保険(株)	2,000,000	1,000
		大洋塩ビ(株)	224	960
		(株)みずほフィナンシャルグループ	4,619,000	702
		積水化成成品工業(株)	2,000,000	654
		MS&ADインシュアランスグループホールディングス(株)	336,000	650
		三井不動産(株)	313,000	473
		(株)みずほフィナンシャルグループ 第11回第11種優先株式	1,000,000	452
		ダイセル化学工業(株)	863,000	427
		東ソー(株)	1,367,000	375
		エア・ウォーター(株)	342,000	348
		住友大阪セメント(株)	1,430,000	321
		その他121銘柄	11,727,150	3,553
		小計	39,828,781	20,822
計		39,828,781	20,822	

〔債券〕

		銘柄	券面総額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他有価証券	福岡県公債	118	118
		千葉県公債	2	2
		小計	120	120
計		120	120	

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	57,267	4,520	868	60,919	33,424	1,798	27,495
構築物	48,225	1,018	673	48,571	32,581	1,198	15,989
機械及び装置	260,351	19,064	11,487	267,928	199,706	13,652	68,221
車輛運搬具	2,578	59	39	2,597	2,405	98	192
工具、器具及び備品	11,527	855	385	11,997	10,080	678	1,917
土地	60,894	34	4	60,924	—	—	60,924
建設仮勘定	12,316	17,032	25,776	3,572	—	—	3,572
計	453,162	42,585	39,235	456,512	278,198	17,426	178,314
無形固定資産							
借地権	—	—	—	23	—	—	23
特許権	—	—	—	538	145	15	392
ソフトウェア	—	—	—	3,311	3,088	377	223
その他	—	—	—	297	180	6	116
計	—	—	—	4,171	3,414	399	756
長期前払費用	2,237	2,013	571	3,680	1,190	505	2,490

(注) 1. 当期増加額の主要内訳は次のとおりであります。

(建物)	青海工場	2,759百万円	(クロロブレンゴム大型自動定温倉庫建設工事ほか)
(機械及び装置)	〃	12,848百万円	(高分子ヒアルロン酸製剤製造設備増設工事ほか)
	大牟田工場	3,526百万円	(サイアロン蛍光体製造設備建設工事ほか)
(建設仮勘定)	青海工場	6,793百万円	(クロロブレンゴム大型自動定温倉庫建設工事ほか)
	大牟田工場	5,425百万円	(サイアロン蛍光体製造設備建設工事ほか)

2. 当期減少額の主要内訳は次のとおりであります。

(機械及び装置)	青海工場	10,156百万円	(D S ポパール(株)設立に伴う設備譲渡ほか)
----------	------	-----------	--------------------------

3. 無形固定資産の金額は資産の総額の百分の一以下であるため、「前期末残高」、「当期増加額」および「当期減少額」の記載を省略しております。

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金 (注)	827	328	497	329	328
賞与引当金	1,221	1,213	1,221	—	1,213
競争法関連費用引当金	7,390	—	—	—	7,390

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、一般債権の貸倒実績率による洗替額および個別評価債権の洗替額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

平成23年3月31日現在における貸借対照表につき科目の内容は次のとおりであります。

① 流動資産

(a) 現金及び預金

内容	金額（百万円）
現金	0
預金の種類	
当座預金	1,326
普通預金	0
別段預金	10
外貨預金	34
郵便預金	0
小計	1,372
合計	1,372

(b) 受取手形

相手先別内訳

相手先	金額（百万円）
小松物産(株)	125
六興商事(株)	106
(株)トーヨーアドテック	105
上原成商事(株)	89
赤羽産業(株)	84
その他	924
合計	1,435

期日別内訳

期日別	金額（百万円）
平成23年4月期日	290
平成23年5月期日	392
平成23年6月期日	366
平成23年7月期日	362
平成23年8月期日	22
平成23年9月期日	1
合計	1,435

(c) 売掛金
相手先別内訳

相手先	金額（百万円）
菱三商事(株)	6,657
東洋スチレン(株)	5,134
丸善石油化学(株)	4,880
山富商事(株)	3,823
東海東洋アルミ販売(株)	2,106
その他	32,575
合計	55,176

売掛金の発生および回収ならびに滞留状況

摘要	金額（百万円）	
前期繰越高	A	51,623
当期売掛金計上高	B	247,756
当期回収高	C	244,203
当期末残高	D	55,176
滞留期間	$\frac{A+D}{2} \div \frac{B}{12}$	2.59ヶ月
回収率	$\frac{C}{A+B}$	81.57%

(注) 消費税の会計処理は税抜方式を採用していますが、上記金額には消費税等が含まれております。

(d) 商品及び製品、原材料等のたな卸資産

区分	金額（百万円）
商品及び製品	
有機系素材	11,872
無機系素材	4,506
電子材料	3,800
機能・加工製品	4,345
合計	24,524
原材料	
石炭およびコークス	876
白珪石	228
重油	186
ベンゼン	144
その他	4,665
合計	6,100
貯蔵品	
金属材料	2,423
非金属材料	542
合計	2,966

② 固定資産
 (a) 関係会社株式

名称	金額（百万円）
デンカ生研(株)	10,095
デンカケミカルズホールディングスアジアパシフィック P. L.	6,750
東洋スチレン(株)	2,500
デンカポリマー(株)	2,080
黒部川電力(株)	1,500
千葉スチレンモノマー(有)	1,200
その他	5,191
合計	29,317

③ 流動負債
 (a) 買掛金

相手先	金額（百万円）
丸善石油化学(株)	11,280
東洋スチレン(株)	2,351
三菱商事(株)	1,669
昭和電工(株)	1,102
協同酢酸(株)	1,058
その他	18,126
合計	35,588

(b) 短期借入金

借入先	金額（百万円）
(株)みずほコーポレート銀行	7,550
(株)三井住友銀行	4,830
農林中央金庫	4,565
(株)三菱東京UFJ銀行	3,300
中央三井信託銀行(株)	1,500
その他	5,930
合計	27,675

④ 固定負債

(a) 社債

内訳	金額 (百万円)
無担保普通社債	25,000
(内1年以内返済予定額)	(-)

(注) 社債の明細につきましては、「第5 経理の状況 (1) 連結財務諸表 ⑤ 連結附属明細表」に記載しております。

(b) 長期借入金

借入先	金額 (内1年以内返済予定額) (百万円)
シンジケート・ローン (注)	26,500 (7,060)
三井生命保険(株)	3,000 (890)
(株)日本政策投資銀行	2,665 (—)
中央三井信託銀行(株)	1,000 (—)
明治安田生命保険 (互)	500 (—)
第一生命保険(株)	500 (—)
日本生命保険 (互)	500 (—)
合計	34,665 (7,950)

(注) シンジケート・ローンの貸出人は(株)第四銀行他39社であります。

(3) 【その他】

① 決算日後の状況

該当事項はありません。

② 訴訟

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り・売渡し	
取扱場所	(特別口座) 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
取次所	_____
買取・売渡手数料	当社の株式取扱規定に定める額
公告掲載方法	電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載しておこなう。 広告掲載URL http://www.denka.co.jp/
株主に対する特典	なし

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび新株予約権の割当てを受ける権利ならびに単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有しておりません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券報告書およびその添付書類並びに確認書
事業年度（第151期）（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）平成22年6月22日関東財務局長に提出
- (2) 内部統制報告書およびその添付書類
平成22年6月22日関東財務局長に提出
- (3) 四半期報告書及び確認書
（第152期第1四半期）（自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日）平成22年8月13日関東財務局長に提出
（第152期第2四半期）（自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日）平成22年11月12日関東財務局長に提出
（第152期第3四半期）（自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日）平成23年2月14日関東財務局長に提出
- (4) 臨時報告書
平成22年6月28日関東財務局長に提出
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。
平成23年2月9日関東財務局長に提出
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号（代表取締役の異動）の規定に基づく臨時報告書であります。
- (5) 訂正発行登録書
平成22年4月1日関東財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年6月15日

電気化学工業株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大田原 吉隆

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 薬袋 政彦

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 矢部 直哉

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている電気化学工業株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、電気化学工業株式会社及び連結子会社の平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、電気化学工業株式会社の平成22年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、電気化学工業株式会社が平成22年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成23年6月15日

電気化学工業株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大田原 吉隆

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 薬袋 政彦

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 矢部 直哉

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている電気化学工業株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、電気化学工業株式会社及び連結子会社の平成23年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、電気化学工業株式会社の平成23年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、電気化学工業株式会社が平成23年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成22年6月15日

電気化学工業株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大田原 吉隆

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 薬袋 政彦

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 矢部 直哉

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている電気化学工業株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第151期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、電気化学工業株式会社の平成22年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成23年6月15日

電気化学工業株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大田原 吉隆

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 薬袋 政彦

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 矢部 直哉

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている電気化学工業株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第152期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、電気化学工業株式会社の平成23年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年6月22日
【会社名】	電気化学工業株式会社
【英訳名】	DENKI KAGAKU KOGYO KABUSHIKI KAISHA
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 吉高 紳介
【最高財務責任者の役職氏名】	取締役 兼 常務執行役員 綾部 光邦
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

当社代表取締役社長吉高紳介および最高財務責任者綾部光邦は、当社の財務報告に係る内部統制の整備および運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備および運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止または発見することができない可能性があります。

2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成23年3月31日を基準日としておこなわれており、評価にあたっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しております。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価をおこなったうえで、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しております。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析したうえで、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備および運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価をおこないました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、会社ならびに連結子会社および持分法適用会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定しました。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的および質的影響の重要性を考慮して決定しており、会社ならびに連結子会社10社および持分法適用関連会社1社を対象としておこなった全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定しました。なお、連結子会社17社および持分法適用非連結子会社2社ならびに持分法適用関連会社12社については、金額的および質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めておりません。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の前連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）の金額が高い拠点から合算していき、前連結会計年度の連結売上高の概ね2/3に達している3事業拠点を「重要な事業拠点」としました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金およびたな卸資産に至る業務プロセスを評価の対象としました。さらに、選定した重要な事業拠点に関わらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引をおこなっている事業または業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しております。

3 【評価結果に関する事項】

上記の評価手続を実施した結果、平成23年3月31日現在の当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断しました。

4 【付記事項】

付記すべき事項はありません。

5 【特記事項】

特記すべき事項はありません。